



オフラインバックアップ・ リストア運用ガイド

ArcSuite 4.0

はじめに

このたびは富士フイルムビジネスイノベーションのArcSuite[®]をご利用いただき、まことにありがとうございます。

一般に、企業活動では、各業務に関する情報はさまざまな形態のドキュメントとして存在しています。ここでいうドキュメントとは、紙に書かれた文書だけを示す狭義のものではありません。紙はもちろんのこと、ホワイトボードに書かれた文字や図表、プロジェクターやテレビに映し出された映像などを含む広義なものを指します。

ドキュメントは一般に、ひとりの手で作成されるものではなく、複数の人の意見交換や討議を経て作成されます。単純な作業や複雑な計算はコンピューターに委ねられ、あらゆる分野でさまざまなソリューションが展開されていますが、ドキュメントの作成では一般に人が中心なのです。

ArcSuiteは、「ドキュメント」に着目して「人」と「人」をつなぐ、「ドキュメント指向」のソリューション・パッケージです。ArcSuiteをご利用いただくことによって、さまざまなコンピューターシステムを統合したうえでのドキュメントの共有や管理が可能になります。

お使いの商品構成によって、次の機能が標準で提供されないことがあります。

コラボスペース、ドキュメントレビューオプション、ワークフロー、分類ビュー、関連文書検索サービス、原本性保証オプション、キャプチャリングサービス、統合検索サービス、オンラインバックアップオプション、ドキュメント一括操作ツール、連携フォルダ for DocuWorks、連携オプション for Working Folder

本書の内容は、Microsoft Windows Operating System、およびWebブラウザの基本的な知識や操作方法を習得されているかたを対象として記述しています。

Excel、Internet Explorer、Microsoft、Windows、およびWindows Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

OracleとJavaは、Oracle Corporation及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

Xerox、Xeroxロゴ、およびFuji Xerox ロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

その他の社名または商品名などは、各社の登録商標または商標です。

Microsoft Corporationの許可を得て画面写真を使用しています。

ご注意

- ・ 本書の編集、変更、または無断での転載はしないでください。
- ・ 本書に記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- ・ 本書に記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

FUJIFILM、およびFUJIFILM ロゴは、富士フイルム株式会社の登録商標または商標です。

ArcEPS、ArcSuite、およびDocuWorksは、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の登録商標または商標です。

著作権について

本ソフトウェア、およびバックアップのために複製されたソフトウェアに関する著作権等を含む一切の無体財産権は、弊社および弊社への供給者に帰属します。

(c) 2002-2021 FUJIFILM Business Innovation Corp.

マニュアル体系

ArcSuiteには、次のマニュアルおよびヘルプがあります。

マニュアルは、PDFファイルまたはヘルプの形式で提供しています。

主なマニュアルは、『ポータル画面のヘルプ』から参照できます。『ポータル画面のヘルプ』は、Webブラウザの操作画面にある「ヘルプ」から表示できます。

補足 お使いの商品構成によっては、提供されない機能の説明がマニュアルに含まれることがあります。

■ 管理者ユーザー向け

名称	概要
セットアップガイド	本製品全体のセットアップ方法について説明しています。
システム管理者ガイド	リソース管理サービスの概要、機能、管理操作を行うコマンドについて説明しています。また、本製品の運用に必要な管理作業について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理者ガイド	ドキュメント管理サービスの概要、機能、および管理操作を行うコマンドについて説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション デスクトップ版のヘルプ	サーバーで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
ドキュメント管理サービス管理アプリケーション Web版のヘルプ	クライアントPCで行うドキュメント管理サービスの管理操作について説明しています。
オフラインバックアップ・リストア運用ガイド（本書）	オフラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
リソース管理アプリケーションのヘルプ	ユーザー、グループ、ユーザーロールの追加、およびライセンスの編集、検索について説明しています。
ログインサーバー管理アプリケーションのヘルプ	ログインサーバーでの認証モードの設定について説明しています。
メッセージ通知管理アプリケーションのヘルプ	メッセージ通知サーバーの設定、メッセージのプール管理、メッセージテンプレートの設定について説明しています。
ポータル管理アプリケーションのヘルプ	ユーザープロフィールに表示する項目の設定、お知らせの設定について説明しています。
ドキュメントスペース管理アプリケーションのヘルプ	属性テンプレートや表示する属性の設定、表示するボタンの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
表示アプリケーション管理ツールのヘルプ	表示アプリケーションのテンプレート、システム環境の設定について説明しています。
ログ管理アプリケーションのヘルプ	ログを表示する機能、ログを取得する機能、および保守情報を一括で取得する機能について説明しています。

名称	概要
監視ツールのヘルプ	ArcSuiteのコンポーネントにアクセスしているユーザー、データベースの状態、およびセッションの状態を監視する機能について説明しています。
ドキュメントスペースドキュメント操作URLリファレンスガイド	ドキュメントスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
オンラインバックアップ・リストア運用ガイド	オンラインバックアップ機能の操作、およびリストア機能の操作について説明しています。
e-文書法対応 概要説明書	e-文書法対応の概要および原本性保証オプションの機能について説明しています。
コラボスペース管理アプリケーションのヘルプ	コラボスペースのメールの設定、ログの設定、およびタスクやメッセージの用語をカスタマイズする設定について説明しています。
ワークフロー管理アプリケーションのヘルプ	ワークフロー定義または起動テンプレートの作成者および公開者の設定、ログの設定、外部コマンドの設定について説明しています。
キャプチャリング管理アプリケーションのヘルプ	キャプチャリングサービスの監視キューに対する操作について説明しています。
統合検索サービス管理アプリケーションのヘルプ	統合検索サービスのリソースの設定、収集スケジュールの設定、およびシステム環境の設定について説明しています。
コラボスペースタスク操作URLリファレンスガイド	コラボスペースの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
ワークフロー操作URLリファレンスガイド	ワークフローの機能にURLを使用して接続する機能について説明しています。
Webサービスインターフェイスリファレンスガイド	ArcSuiteの機能にSOAPを使用して接続するAPIについて説明しています。
ドキュメント管理サービスSDKリファレンスガイド	ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
コラボスペースInterface Toolkitリファレンスガイド	コラボスペースのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。
ワークフロー Interface Toolkitリファレンスガイド	ワークフローのオブジェクトを処理するコマンドについて説明しています。

■ クライアントユーザー向け

名称	概要
ポータル画面のヘルプ	ポータル画面で、お気に入りの編集、ユーザープロフィールを変更する操作について説明しています。 Webブラウザの操作画面にある【ヘルプ】から参照してください。
アドレス帳のヘルプ	アドレス帳で、ユーザー、グループ、ユーザーロール、およびタスクを検索する操作について説明しています。
ドキュメントスペースのヘルプ	ドキュメントスペースで、登録、属性の変更、検索などのドキュメントを管理する機能の操作について説明しています。
表示アプリケーションのヘルプ	表示アプリケーションで、ブラウザーイメージ変換された画像を編集する操作、およびユーザー設定について説明しています。
検索条件式のヘルプ	ドキュメントスペースの詳細検索で、全文検索または属性検索の条件式をXMLで指定するときの記述方法について説明しています。

名称	概要
簡易操作のヘルプ	簡易操作画面でドキュメントを管理する機能の操作、および操作画面の設定方法について説明しています。
コラボスペースのヘルプ	コラボスペースで、タスクの作成、メッセージの登録、および検索などの操作について説明しています。
ワークフローのヘルプ	ワークフローで、ワークフロー定義の作成、公開および起動する操作、作業を実行する操作について説明しています。
ドキュメント一括操作ツール説明書	Microsoft Excelを使って、ドキュメント管理サービスのオブジェクトを処理する操作について説明しています。
デスクトップクライアント セットアップガイド	デスクトップクライアントのセットアップ方法について説明しています。
デスクトップクライアント 操作説明書	デスクトップクライアントで、ドキュメント管理サービスのフォルダーやドキュメントにアクセスする操作方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorks セットアップガイド	連携フォルダ for DocuWorksのセットアップ方法について説明しています。
連携フォルダ for DocuWorksの ヘルプ（*1）	DocuWorks Deskで、ArcSuiteに登録されているドキュメントを操作する方法について説明しています。

* 1: 連携フォルダ for DocuWorks をインストールした DocuWorks Desk のヘルプから参照してください。

本書の使い方

本書は、ArcSuiteのオフラインバックアップおよびリストアの操作について説明しています。

ArcSuiteのオフラインバックアップとリストアの操作の一連の流れをご理解いただくために、本書をお読みください。

■ 本書の構成

本書は、次の部、章、付録から構成されています。

◆ [第1部 バックアップとリストアの概要](#)

[1 概要](#)

バックアップ・リストアの概要を説明しています。

[2 オフラインバックアップとオンラインバックアップ](#)

オフラインバックアップとオンラインバックアップの違いについて説明しています。

◆ [第2部 オフラインバックアップ](#)

[1 オフラインバックアップを始める前に](#)

オフラインバックアップを始める前に確認しておくこと、バックアップするときに注意することを説明しています。

オフラインバックアップを実行する前に、必ずお読みください。

[2 バックアップの操作](#)

オフラインバックアップの操作を説明しています。

◆ 第 3 部 リストア - 既存のサーバーの場合

1 オールインワン構成のサーバーの場合

システム構成がオールインワン構成で、既存のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

2 2 台構成のサーバーの場合

システム構成が2 台構成で、既存のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

◆ 第 4 部 リストア - 新規のサーバーの場合

1 オールインワン構成のサーバーの場合

システム構成がオールインワン構成で、新規のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

2 2 台構成のサーバーの場合

システム構成が2 台構成で、新規のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

付録

システムを停止する期間を短縮して、バックアップ、リストアする方法、レジストリーのバックアップとリストアで使用するコマンド、「dbfiles.txt」ファイルの出力例、オフラインバックアップに必要な準備について確認するチェックリストを記載しています。

■ 本書の表記

- ・ 本書では、次の記号を使用しています。

< > キー	キーボードのキーを表します。 例：<Enter>キーを押します。
[]	画面に表示されるメニュー、ボタン、項目を表します。 例：[新規作成] をクリックします。
[]	同一マニュアル内の参照箇所を表します。 また、強調する用語やメッセージも表します。 例：「1 概要」 「名前が指定されていません。」と表示されます。
『 』	参照するマニュアルの名前を表します。 例：『システム管理者ガイド』
{ }	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：[{ユーザー名}] をクリックします。
>	メニューやWebページの階層を表します。 例：[システムとセキュリティ] > [管理ツール]
注 記	一般的な注意事項を表します。
補 足	機能や操作に関する補足説明を表します。
参 照	参照する事項があることを表します。
<u> </u>	参照先タイトルやページへのリンクがあることを表します。 例： 「1 概要」 (P.6)

- ・ コマンドラインを次のように表記しています。

abc	画面に表示される文字列、またはユーザーが入力する文字列を表します。 例：showDrawerInformation
{abc}	ユーザー名やサーバー名など、操作時に変わる値を表します。 例：cabinetId {or RETURN} = {キャビネットID}

- ・ Microsoft Windows Operating System を「Windows」と表記しています。
- ・ パーソナルコンピュータを「PC」と表記しています。
- ・ お使いの環境によって、マニュアルに記載の画面と実際の画面が異なることがあります。
- ・ 特に表記がない場合の製品のバージョン番号は「4.0」です。

目次

第 1 部 バックアップとリストアの概要

1 概要

1.1	バックアップとは	14
1.2	リストアとは	15
1.2.1	リストアの種類	15
	既存のサーバーにデータをリストアする	15
	新規のサーバーにデータをリストアする	16

2 オフラインバックアップとオンラインバックアップ

2.1	オフラインバックアップ	18
2.1.1	運用の状態とクライアントコンピューターからの操作	19
2.2	オンラインバックアップ	20
2.2.1	運用の状態とクライアントコンピューターからの操作	21
2.3	オフラインバックアップとオンラインバックアップの違い	22

第 2 部 オフラインバックアップ

1 オフラインバックアップを始める前に

1.1	準備すること	25
	バックアップデータの保存先	25
	バックアップソフトウェア	25
	システム構成の確認	25
	ArcSuite のバージョンの確認	25
	関連するサービスの確認	25
	ArcSuite の起動ユーザー、グループの確認	25
	バックアップするデータの確認	25
1.2	システム構成の確認	26
1.2.1	オールインワン構成	26
1.2.2	2 台構成	27
1.3	ArcSuite のバージョンの確認	28
1.3.1	ArcSuite のバージョンを確認する	28
1.4	サービスの確認	29
1.4.1	ArcSuite に関連するサービスを確認する	29
	オールインワン構成の場合	29
	2 台構成の場合	30
1.5	サービス起動ユーザーおよびグループの確認	32
1.5.1	サービス起動ユーザー、グループとは	32
1.5.2	サービスを起動するユーザー、グループを確認する	32
	サービスを起動するユーザーを確認する	32
	グループを確認する	32
1.6	バックアップするデータの確認	33
1.6.1	インストール時および設定変更時にバックアップするデータ	33
1.6.2	定期的にバックアップするデータ	34

「表領域のデータファイル」、「一時表領域のデータファイル」、「制御ファイル」、「REDO ファイル」、「サーバーパラメータファイル」の格納場所を確認する	37
「ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定した フォルダー」、「アーカイブ保存データの出力先」を確認する	38
「キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー」を確認する	39
「コラボスペースのインポートフォルダー」を確認する	40
「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」を確認する	40
「外部コマンドの配置フォルダー」を確認する	41

2 バックアップの操作

2.1 オフラインバックアップ作業の流れ	43
2.2 バックアップするときに注意すること	44
2.3 サービスの停止	45
2.3.1 オールインワン構成のサーバーでサービスを停止する	45
2.3.2 2 台構成のサーバーでサービスを停止する	46
2.4 データのバックアップ	48
ArcSuite をインストールしたとき	48
ArcSuite の設定を変更したとき	48
定期的にバックアップを実行するとき	49
2.5 サービスの起動	50
2.5.1 オールインワン構成のサーバーでサービスを起動する	50
2.5.2 2 台構成のサーバーでサービスを起動する	51

第 3 部 リストア - 既存のサーバーの場合

1 オールインワン構成のサーバーの場合

1.1 リストア作業の流れ	54
1.2 サービスの停止	55
1.2.1 データベースサービスが停止していることを確認する	55
1.3 リストアの対象となるデータ	56
データベースの運用データ	56
ユーザーホームのデータ	56
ドキュメント管理サービスのデータ	56
コラボスペースのデータ	56
ワークフローのデータ	56
キャプチャリングサービスのデータ	56
1.4 バックアップデータのリストア	57
1.4.1 本体サーバーにデータをリストアする	57
1.4.2 外部連携サーバーにデータをリストアする	58
1.5 サービスの起動	59

2 2台構成のサーバーの場合

2.1 リストア作業の流れ	61
2.2 サービスの停止	63
2.3 リポジトリサーバーでの操作	64
2.3.1 リストアの対象となるデータ	64
データベースの運用データ	64
ユーザーホームのデータ	64

ドキュメント管理サービスのデータ	64
2.3.2 データベースサービスが停止していることを確認する	65
2.3.3 バックアップデータをリストアする	65
2.3.4 サービスを起動する	66
2.4 コンポーネントサーバーでの操作	67
2.4.1 リストアの対象となるデータ	67
ユーザーホームのデータ	67
コラボスペースのデータ	67
ワークフローのデータ	67
2.4.2 バックアップデータをリストアする	67
2.4.3 サービスを起動する	68
2.5 外部連携サーバーでの操作.....	69
2.5.1 リストア対象となるデータ	69
ユーザーホームのデータ	69
キャプチャリングサービスのデータ	69
2.5.2 バックアップデータをリストアする	69
2.5.3 サービスを起動する	70

第 4 部 リストア - 新規のサーバーの場合

1 オールインワン構成のサーバーの場合

1.1 リストア作業の流れ.....	72
1.2 リストアするときに注意すること	74
1.3 新規のサーバーで実施しておくこと	75
1.4 データベースの設置.....	76
1.5 データベースのサービスの停止.....	77
1.5.1 データベースサービスが停止していることを確認する	77
1.6 リストアの対象となるデータ	78
レジストリーの設定データ	78
データベースの設定データ	78
ArcSuite の設定データ	78
データベースの運用データ	78
ユーザーホームのデータ	78
ドキュメント管理サービスのデータ	78
コラボスペースのデータ	79
ワークフローのデータ	79
キャプチャリングサービスのデータ	79
1.7 Windows のサービス起動ユーザーの設定.....	80
1.7.1 ユーザー名とパスワードを設定する	80
1.7.2 グループを設定する	81
1.7.3 「サービスとしてログオン」の権利を設定する	82
1.8 バックアップデータのリストア.....	83
1.8.1 本体サーバーにデータをリストアする.....	83
1.9 データベースサービスの起動	85
1.10 アップデーター、ホットフィックス情報の削除.....	86
1.10.1 本体サーバーのアップデーター、ホットフィックス情報を削除する	86
1.11 ArcSuite のインストール	87
1.12 「mime.types」ファイルのリストア.....	88

リストアするデータ	88
リストアする手順.....	88
1.13 アップデーター、ホットフィックスの適用.....	89
1.14 コラボスペースデータのリストア	90
1.14.1 コラボスペースのデータをリストアする	90
1.15 ワークフローのデータのリストア	91
1.15.1 リストアするデータ	91
1.15.2 ワークフローデータをリストアする	91
1.16 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定	92
1.17 サービスの起動.....	93
1.17.1 本体サーバーでサービスを起動する	93
1.18 ライセンスの認証	94
1.19 外部連携サーバーでの操作.....	95
1.19.1 リストア対象となるデータ	95
レジストリーのデータ	95
ArcSuite の設定データ	95
ユーザーホームのデータ	95
キャプチャリングサービスのデータ	95
1.19.2 バックアップデータをリストアする	96
1.19.3 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する	97
1.19.4 ArcSuite をインストールする.....	97
1.19.5 「mime.types」 ファイルをリストアする	97
リストアするデータ	97
リストアする手順.....	98
1.19.6 アップデーター、ホットフィックスを適用する	98
1.19.7 外部連携サーバーでサービスを起動する	98
1.19.8 ライセンスの認証.....	98

2 2台構成のサーバーの場合

2.1 リストア作業の流れ.....	100
2.2 リストアするときに注意すること	103
2.3 新規のサーバーで実施しておくこと	104
2.4 リポジトリサーバーでの操作.....	105
2.4.1 リストアの対象となるデータ	105
2.4.2 データベースを設置する.....	106
2.4.3 データベースサービスの停止	106
2.4.4 データベースサービスが停止していることを確認する	106
2.4.5 Windows のサービス起動ユーザーを設定する.....	107
ユーザー名とパスワードの設定.....	107
グループの設定	108
「サービスとしてログオン」 の権利の設定	108
2.4.6 バックアップデータをリストアする	109
2.4.7 データベースサービスの起動	110
2.4.8 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する	110
2.4.9 ArcSuite をインストールする.....	111
2.4.10 「mime.type」 ファイルをリストアする	111
2.4.11 アップデーター、ホットフィックスを適用する	111
2.4.12 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定.....	111
2.4.13 リポジトリサーバーでサービスを起動する	111
2.4.14 ライセンス認証をする	111

2.5	コンポーネントサーバーでの操作	112
2.5.1	リストアの対象となるデータ	112
2.5.2	バックアップデータをリストアする	113
2.5.3	アップデーター、ホットフィックス情報を削除する	113
2.5.4	ArcSuite をインストールする.....	113
2.5.5	「mime.type」 ファイルをリストアする	113
2.5.6	アップデーター、ホットフィックスを適用する	113
2.5.7	コラボスペースデータをリストアする.....	114
2.5.8	ワークフローデータをリストアする	114
2.5.9	ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定.....	114
2.5.10	コンポーネントサーバーでサービスを起動する	114
2.5.11	ライセンス認証をする	114
2.6	外部連携サーバーでの操作.....	115
2.6.1	リストア対象となるデータ	115
2.6.2	バックアップデータをリストアする	116
2.6.3	アップデーター、ホットフィックス情報を削除する	117
2.6.4	ArcSuite をインストールする.....	117
2.6.5	「mime.type」 ファイルをリストアする	117
2.6.6	アップデーター、ホットフィックスを適用する	117
2.6.7	外部連携サーバーでサービスを起動する	118
2.6.8	ライセンス認証をする	118

付録

付録A	システムを停止する期間の短縮.....	120
付録 A.1	バックアップ時間の短縮.....	120
付録 A.2	リストア時間の短縮	120
付録B	レジストリーのバックアップとリストア	121
付録 B.1	レジストリーをバックアップする	121
付録 B.2	レジストリーをリストアする.....	121
付録C	「dbfiles.txt」 ファイルの出力例	122
付録D	バックアップのためのチェックリスト	123

第1部 バックアップとリストアの概要

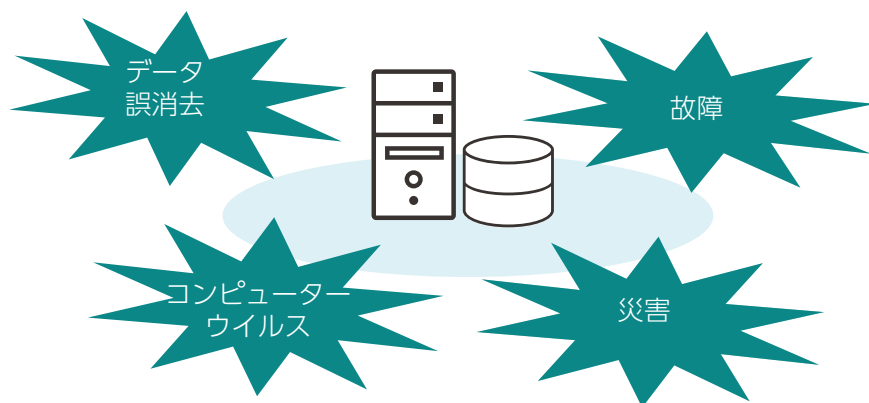
1 概要

バックアップ、リストアの概要を説明します。

1.1 バックアップとは

バックアップとは、データの複製を用意しておくことです。

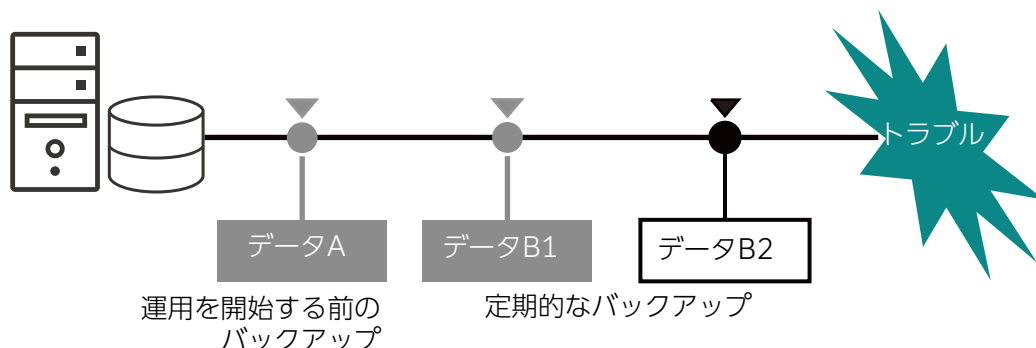
システムの運用中にハードウェアの故障または災害、ユーザーの操作ミスによってデータが消去されたり、コンピューターウイルスによってデータが改ざんされたりなど、なんらかのトラブルによってサーバーが利用できず、システムが停止してしまうことがあります。このような場合に備えて、システムのバックアップを定期的に行い、そのデータを管理します。



ArcSuiteを設置したあと、運用を開始する前に、必要なデータのすべてをバックアップすることを推奨します。

また、運用を開始したあとは、定期的にバックアップを実行することを推奨します。

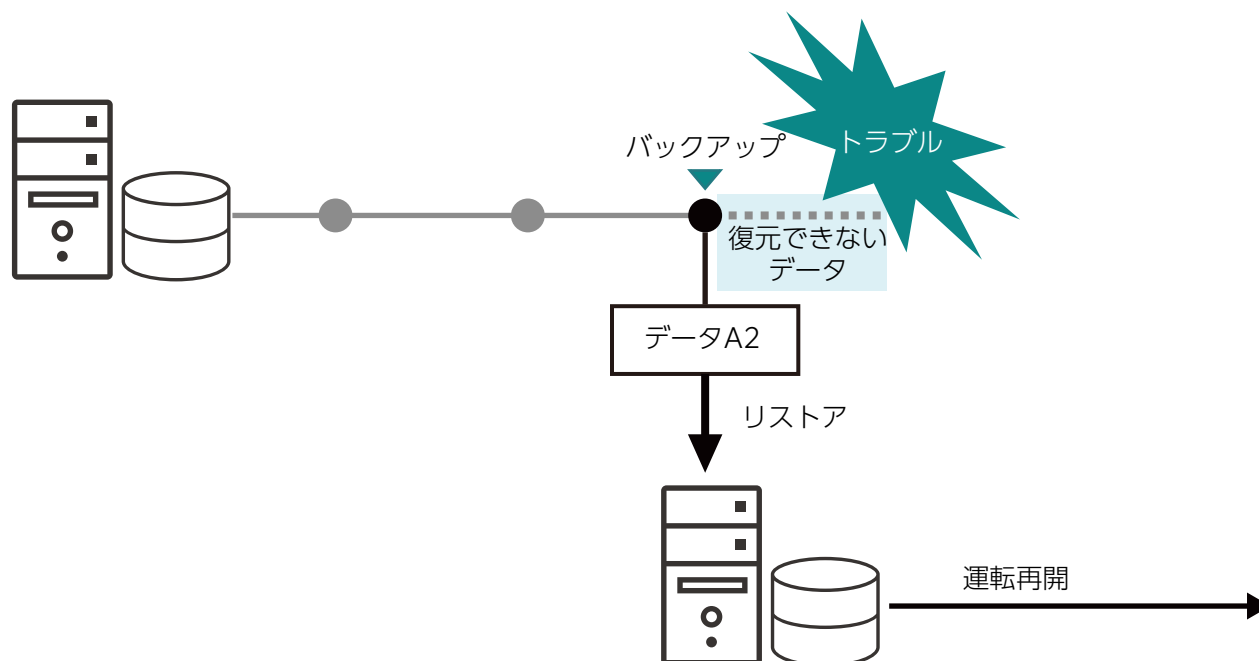
運用を開始する前のバックアップデータ（図では「データA」）は、システムを復旧するときに使用します。定期的なバックアップデータのうち、最新のバックアップデータ（図では「データB2」）を使用して、バックアップを取得した時点に戻って運用を再開できます。



1.2 リストアとは

リストアとは、バックアップしたデータを復元することです。

あらかじめバックアップしておいたデータをリストアすることで、バックアップを実行した時点まで戻り、システムの運用を再開できます。



補足 ArcSuite では、バックアップを実行した時点と同じ設定でデータをリストアします。このため、リストアを実行するときに FQDN や IP アドレスの変更はできません。

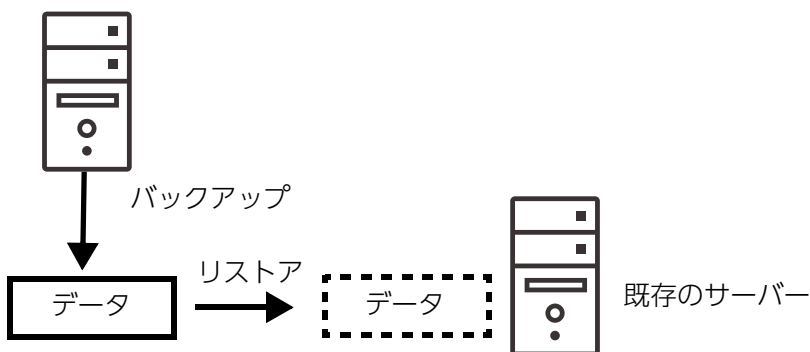
1.2.1 リストアの種類

リストアには、既存のサーバーにバックアップデータをリストアする方法と、新規のサーバーにバックアップデータをリストアする方法の2つの方法があります。

既存のサーバーにデータをリストアする

バックアップデータを作成したサーバーにデータをリストアして、運用を再開する方法です。

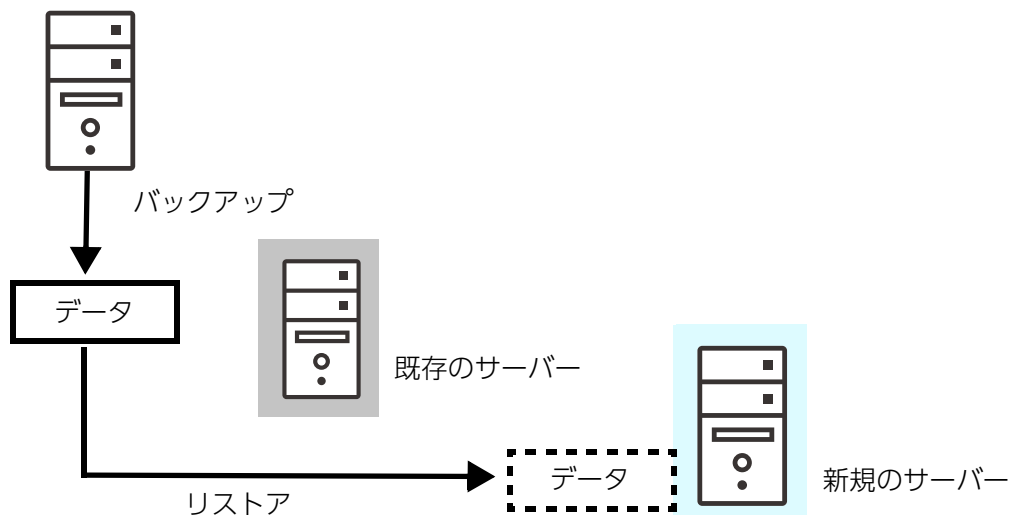
ArcSuiteのデータが、ユーザーの操作ミスによって消去されたり、コンピューターウイルスによって改ざんされたりしたときに、バックアップデータを作成したサーバーに、データをリストアして利用できます。



新規のサーバーにデータをリストアする

新しくサーバーを用意し、データベースの設置、ArcSuiteのインストールなどを実行して、バックアップデータを取ったサーバーと同じ環境にします。そのあと、バックアップデータをリストアして、運用を再開する方法です。

ハードウェアの故障または災害によってサーバーが利用できなくなってしまったとき、現在のハードウェアより性能が高いハードウェアに移設するときには、新しいサーバーにバックアップデータをリストアします。





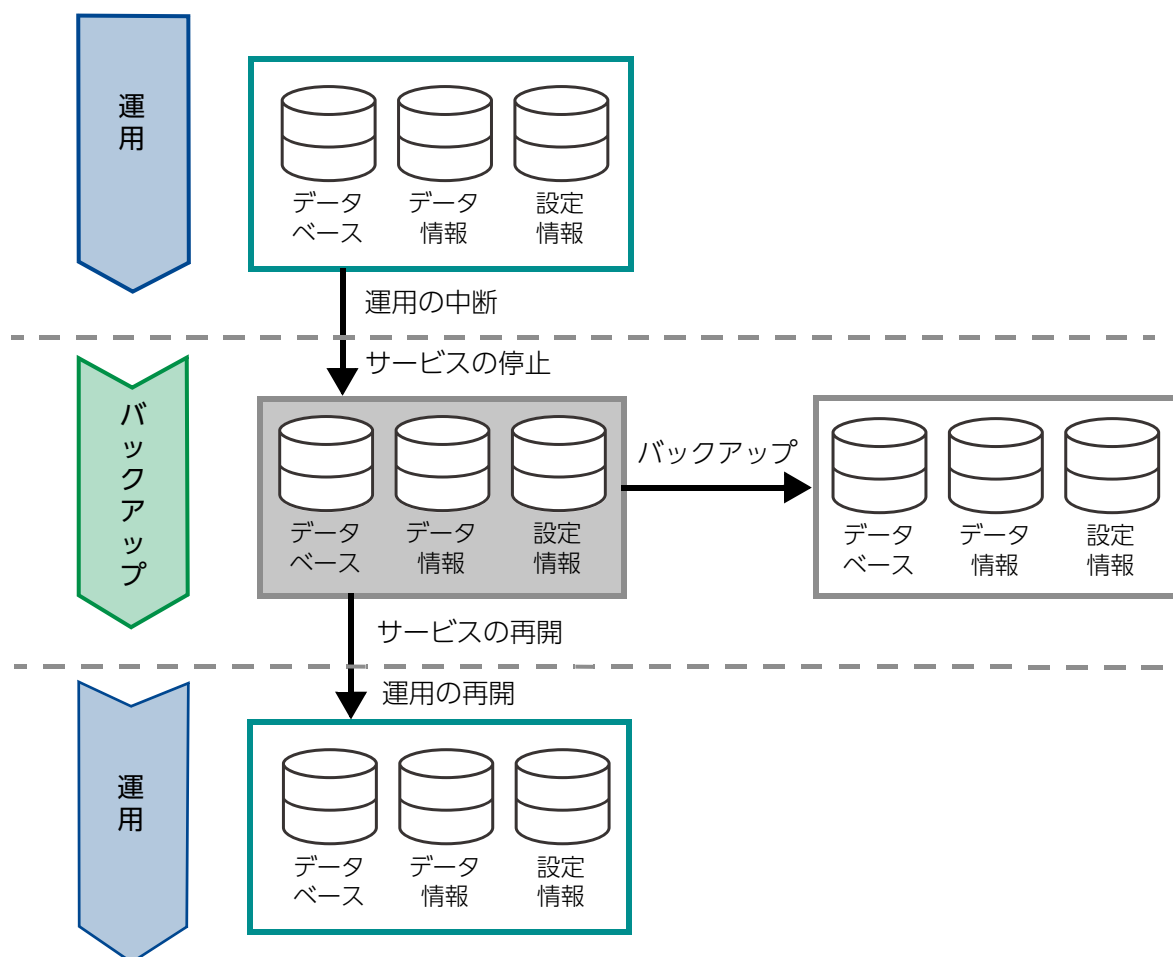
2 オフラインバックアップとオンラインバックアップ

この章では、オフラインバックアップとオンラインバックアップの違いについて説明します。

2.1 オフラインバックアップ

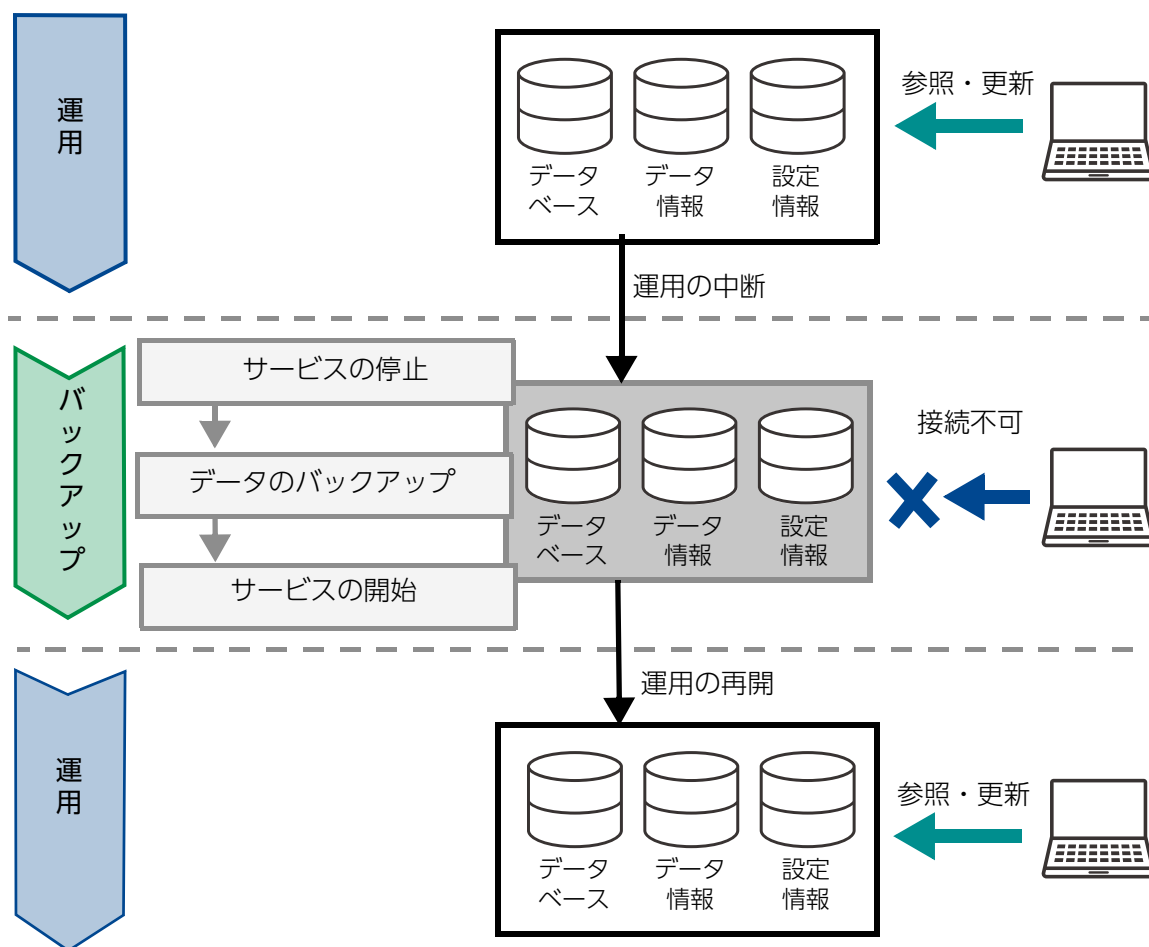
オフラインバックアップでは、システムを構成しているサーバーにインストールされているArcSuiteのサービスを、すべて停止したあと、バックアップを実行します。

この方法は、「コールドバックアップ」とも呼ばれます。ArcSuiteのサービスが停止している間は、ArcSuiteが利用できなくなるので、あらかじめ運用を中断する時間を決めておく必要があります。



2.1.1 運用の状態とクライアントコンピューターからの操作

オフラインバックアップでは、バックアップのために運用を中断してから、運用を再開するまでの間は、クライアントコンピューターからは、ArcSuiteに接続できなくなります。

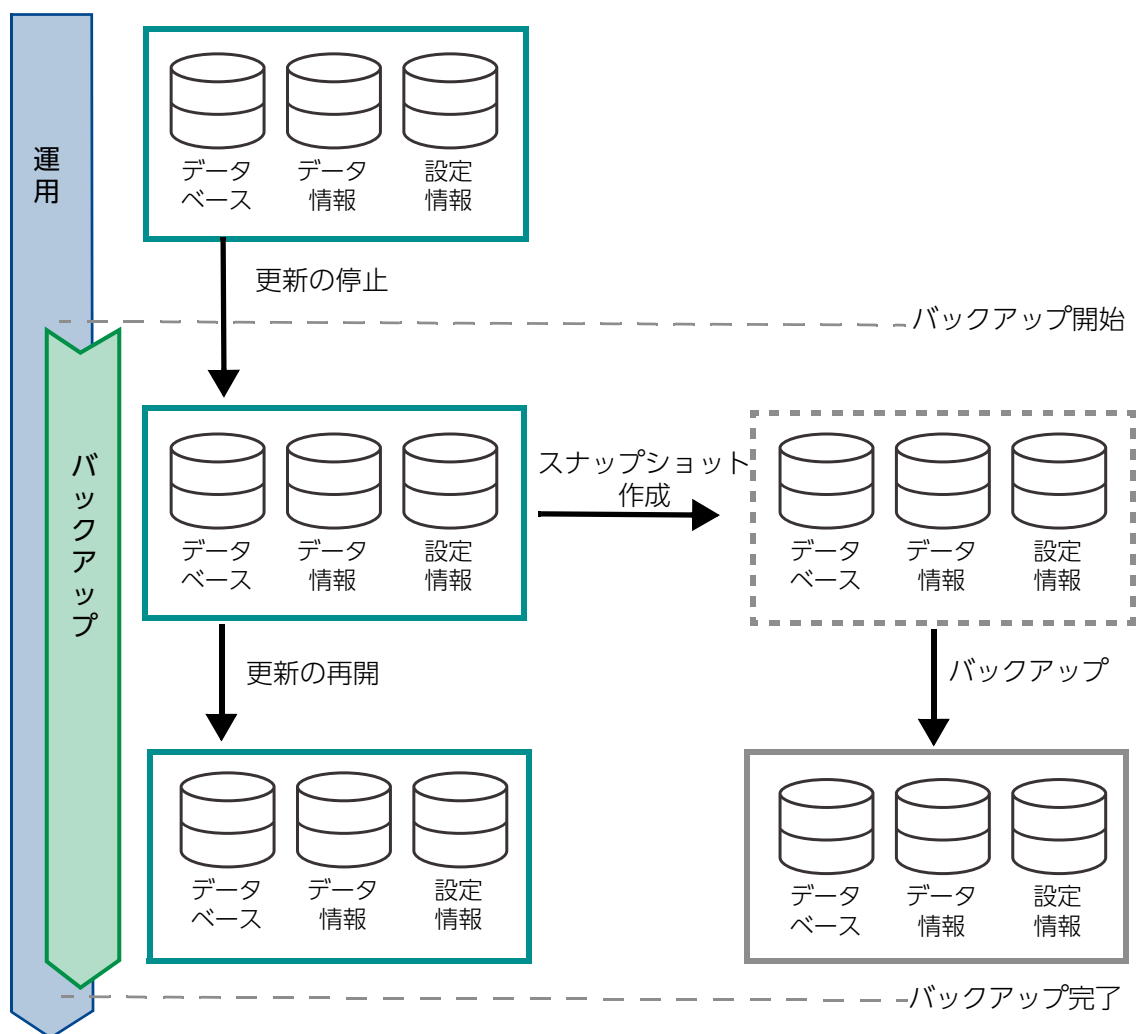


2.2 オンラインバックアップ

オンラインバックアップでは、ArcSuiteのサービスを停止せずにバックアップを実行できます。

この方法は、「ホットバックアップ」とも呼ばれます。ArcSuiteの運用を、参照だけが可能な状態（更新の停止）にして、その間に「スナップショット」を作成します。ArcSuiteの運用を再開（更新の再開）したあと、スナップショットからバックアップデータを作成します。

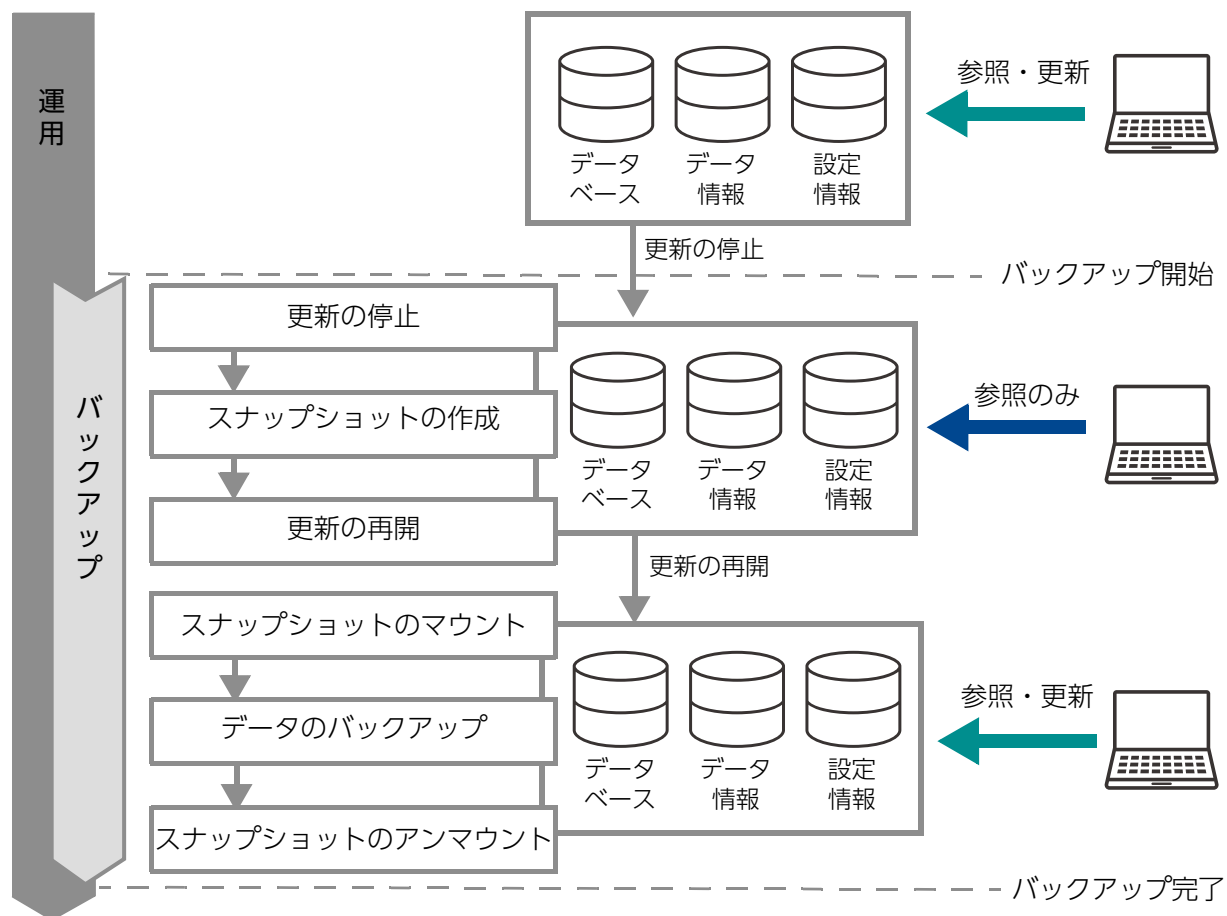
オンラインバックアップは、ArcSuiteを常に稼働して運用する場合に便利です。



補足 オンラインバックアップは、お使いの商品構成によっては、提供されないことがあります。

2.2.1 運用の状態とクライアントコンピューターからの操作

オンラインバックアップでは、バックアップのために更新を停止し更新を再開するまでの間は、クライアントコンピューターからできる操作は参照だけです。



2.3 オフラインバックアップとオンラインバックアップの違い

オフラインバックアップ、オンラインバックアップが可能な環境について説明します。それぞれの方法には、次のような違いがあります。

項目	オフラインバックアップ	オンラインバックアップ
バックアップを実行するために必要なライセンス	なし	オンラインバックアップオプション 補足 オンラインバックアップを実行するには、ArcSuiteをインストールするときに、「オンラインバックアップオプション」を、同時にインストールしておく必要があります。
バックアップ中のArcSuiteの操作制限	すべての操作ができない (接続ができない)	データを更新できない (閲覧などの参照だけができる)
標準的なバックアップ時間	数時間～数十時間 補足 データ量やバックアップ先の記憶装置、ネットワークの転送スピードなどによって変わります。	数分 補足 バックアップ対象のデータが格納されているハードディスクのスナップショットを作成する時間によって変わります。
対応しているシステムの構成	限定なし 注記 ただし、本書では、「オールインワン構成」、「2台構成」の場合のバックアップとリストアについて説明しています。	オールインワン構成のみ 注記 ただし、次の機能がインストールされているオールインワン構成の環境では、オンラインバックアップを実行できません。 ・統合検索サービス ・ArcEPS®
データベースのインストール先ドライブ	限定なし	システムドライブ以外 注記 システムドライブ以外にインストールすることを推奨します。システムドライブにインストールすると、オンラインバックアップを実行したときに、バックアップに時間がかかり、ArcSuiteを更新できない時間が長くなる場合があります。
ArcSuiteのユーザーホームのインストール先ドライブ	限定なし	システムドライブ以外 注記 システムドライブ以外にインストールすることを推奨します。システムドライブにインストールすると、オンラインバックアップを実行したときに、バックアップに時間がかかり、ArcSuiteを更新できない時間が長くなる場合があります。
バックアップに必要なハードディスクの空き容量	バックアップデータを格納できる容量	次の2つのデータを格納できる容量 ・バックアップデータ ・スナップショット
バックアップする直前に必要なArcSuiteに関連するサービスの操作	ArcSuiteの各サービスを停止する	ArcSuiteの更新を一時的に停止する

項目	オフラインバックアップ	オンラインバックアップ
バックアップの操作手段	バックアップソフトウェアを利用して、バックアップデータをコピーする	・更新の一時停止やスナップショットの作成などのコマンドを実行する ・バックアップソフトウェアを利用して、スナップショットからバックアップデータをコピーする
バックアップしたあとで必要な ArcSuite に関連するサービスの操作	ArcSuiteの各サービスを起動する	特になし

補足 「ArcSuite のユーザーホームのインストール先ドライブ」とは、ArcSuite をインストールしたときに、「データ格納先」として指定したドライブのことをいいます。

第2部 オフラインバックアップ

1 オフラインバックアップを始める前に

オフラインバックアップを始める前に確認しておくこと、バックアップするときに注意することを説明します。

1.1 準備すること

バックアップを始める前に、必要な準備について説明します。

[\[付録D バックアップのためのチェックリスト\] \(P.123\)](#) を利用して、お使いの環境をあらかじめ確認しておくことを推奨します。

バックアップデータの保存先

バックアップデータを保存するための記憶装置（外付けのハードディスクドライブ、バックアップ専用サーバー）、またはメディア（テープ）などを、あらかじめ用意しておきます。

バックアップソフトウェア

バックアップを実行するソフトウェアを用意しておくと、バックアップ作業を簡略化できます。

参照 バックアップやリストアの所要時間を短縮する方法については、[\[付録A システムを停止する期間の短縮\] \(P.120\)](#) を参照してください。

システム構成の確認

ArcSuiteサーバーの構成を確認しておきます。

参照 システム構成については、[\[1.2 システム構成の確認\] \(P.26\)](#) を参照してください。

ArcSuite のバージョンの確認

ArcSuiteをインストールしたあと適用したアップデーターのバージョン、およびホットフィックスのバージョンを確認しておきます。

参照 確認方法は、[\[1.3 ArcSuite のバージョンの確認\] \(P.28\)](#) を参照してください。

関連するサービスの確認

ArcSuiteに関連するサービスを確認しておきます。

参照 確認するサービス、確認方法は、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [\[1.4 サービスの確認\] \(P.29\)](#) を参照してください。

ArcSuite の起動ユーザー、グループの確認

ArcSuiteをインストールしたときに設定した起動ユーザー、グループを確認しておきます。

参照 確認方法は、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [\[1.5 サービス起動ユーザーおよびグループの確認\] \(P.32\)](#) を参照してください。

バックアップするデータの確認

バックアップが必要なデータの格納場所を確認しておきます。

参照 バックアップが必要なデータの格納場所と確認方法は、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [\[1.6 バックアップするデータの確認\] \(P.33\)](#) を参照してください。

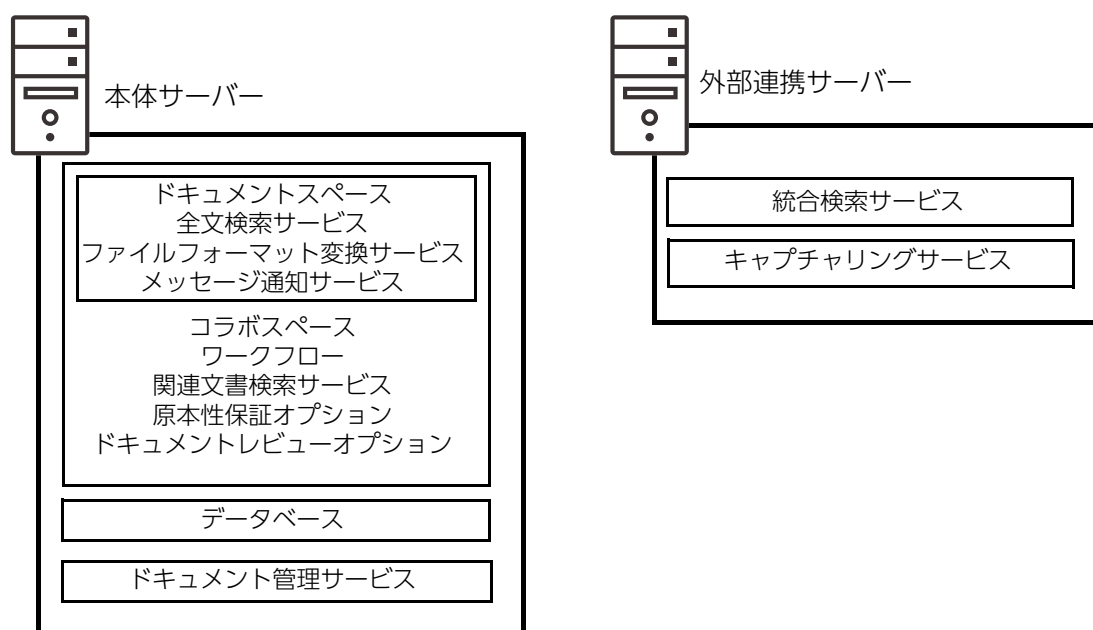
1.2 システム構成の確認

使用している環境のシステム構成を確認します。本書では、「オールインワン構成」または「2台構成」のオフラインバックアップとリストアについて説明します。

1.2.1 オールインワン構成

「オールインワン構成」とは、統合検索サービス、キャプチャリングサービスを除くコンポーネントが、1台のサーバーに設置されている環境です。

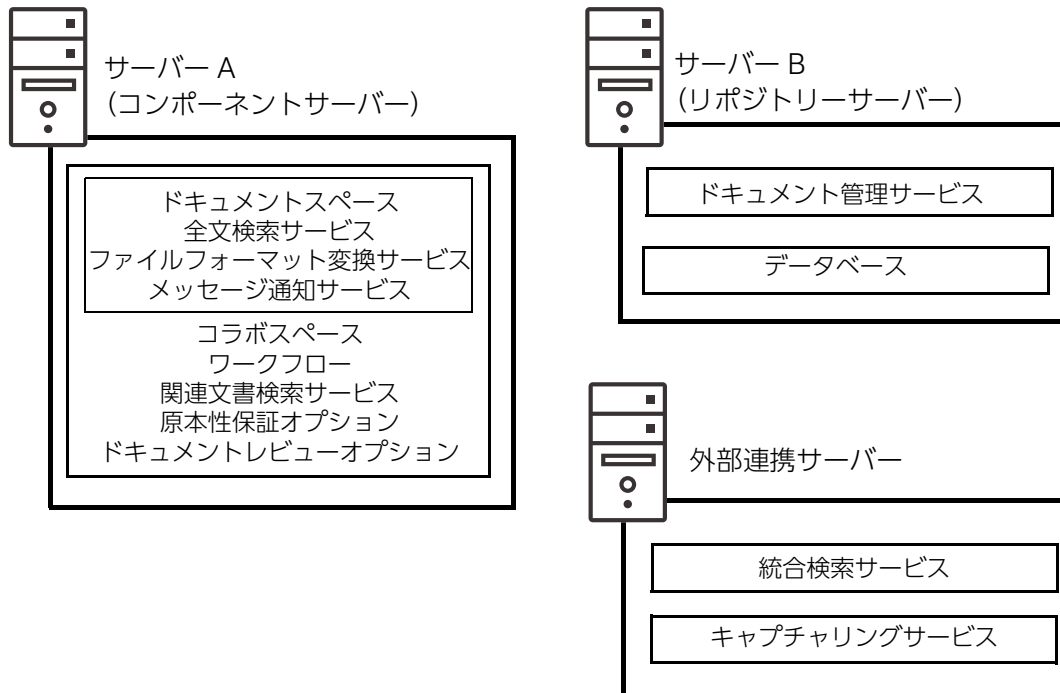
- 補足**
- ・お使いの商品構成によっては、提供されないコンポーネントがあります。
 - ・統合検索サービス、キャプチャリングサービスは、外部の連携サーバーに設置されている環境を想定しています。



1.2.2 2 台構成

「2台構成」とは、統合検索サービス、キャプチャリングサービスを除くコンポーネントが、2台のサーバーに設置されている環境です。次の図の例では、統合検索サービス、キャプチャリングサービスを除くコンポーネントを設置したサーバー（「コンポーネントサーバー」と呼びます。）と、ドキュメント管理サービスとデータベースを設置したサーバー（「リポジトリサーバー」と呼びます。）の2台になっています。

- 補 足**
- ・ お使いの商品構成によっては、提供されないコンポーネントがあります。
 - ・ 統合検索サービス、キャプチャリングサービスは、外部の連携サーバーに設置されている環境を想定しています。



1.3 ArcSuite のバージョンの確認

ArcSuiteをインストールしたあと、適用したアップデーターのバージョン、およびホットフィックスのバージョンを、確認しておきます。

アップデーターのバージョン、ホットフィックスのバージョンは、新規のサーバーにリストアする場合に必要です。

1.3.1 ArcSuite のバージョンを確認する

ArcSuite 4.0.0以降のアップデーターのバージョン、ホットフィックスのバージョンを確認します。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[コントロールパネル] を選択します。
[コントロールパネル] 画面が表示されます。
3. 右上の表示設定プルダウンメニューから [詳細] を選択します。
一覧に詳細が表示されます。
4. [ArcSuite] のバージョンが [4.0.x] であることを確認します。

補足 x は 0 以降を表します。

1.4 サービスの確認

インストールされているArcSuiteに関連するサービスを、確認しておきます。

1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する

オールインワン構成の場合

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
 2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
 3. サービスを確認します。
- (1) 本体サーバーで、次のサービスを確認します。

インストーラーの [インストールする機能] で選択した項目	サービス
ファイルフォーマット変換サービス	ArcSuite Basic Service
ドキュメントレビューオプション	
メッセージ通知サービス	
ドキュメント管理サービス	ArcSuite Repository Service
	ArcSuite Repository Master Admin Service
ドキュメントスペース	ArcSuite Web Application Service
コラボスペース ドキュメントレビューオプション	
ワークフロー	
原本性保証オプション	
全文検索サービス	ArcSuite Full Text Search Service
関連文書検索サービス	ArcSuite kSearchDuo Service
ファイルフォーマット変換サービス	Fx Doc Cnv Helper DocuWorks Print Service
コラボスペース	ArcSuite Collabo Service
(必ずインストールされる項目)	ArcSuite Monitoring Service
	OracleOraDB19Home1TNSListener
	OracleVssWriter {SID}
	OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
	OracleRemExecServiceV2
	OracleJobScheduler {SID}
	OracleService {SID}

- 補足** ・インストールされている機能は、お使いの商品構成によって異なります。
- ・ {SID} は、データベースをインストールしたときに、[データベースのサーバー情報] 画面で「グローバルデータベース名」に入力した値から、最初の「.」（ピリオド）までの値です。「.」（ピリオド）がない場合は、入力したグローバルデータベース名そのまま表示されます。たとえば、「server1.example.com」と入力すると、{SID} には「SERVER1」と表示されます。

(2) 外部連携サーバーで、次のサービスを確認します。

インストーラーの [インストールする機能] で選択した項目	サービス
キャプチャリングサービス	ArcSuite Capturing Service
	ArcSuite Capturing Service Admin
統合検索サービス	ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
	ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
	ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

- 補足** インストールされている機能は、お使いの商品構成によって異なります。

2 台構成の場合

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを確認します。

(1) コンポーネントサーバーで、次のサービスを確認します。

インストーラーの [インストールする機能] で選択した項目	サービス
ファイルフォーマット変換サービス	ArcSuite Basic Service
ドキュメントレビューオプション	
メッセージ通知サービス	
ドキュメントスペース 分類ビュー	ArcSuite Web Application Service
コラボスペース ドキュメントレビューオプション	
ワークフロー	
原本性保証オプション	
全文検索サービス	ArcSuite Full Text Search Service
関連文書検索サービス	ArcSuite kSearchDuo Service
ファイルフォーマット変換サービス	FX Doc Cnv Helper DocuWorks Print Service
コラボスペース	ArcSuite Collabo Service

インストーラーの [インストールする機能] で選択した項目	サービス
(必ずインストールされる項目)	ArcSuite Monitoring Service

補足 インストールされている機能は、お使いの商品構成によって異なります。

(2) リポジトリサーバーで、次のサービスを確認します。

インストーラーの [インストールする機能] で選択した項目	サービス
ドキュメント管理サービス	ArcSuite Repository Service
	ArcSuite Repository Master Admin Service
(必ずインストールされる項目)	ArcSuite Monitoring Service
	OracleOraDB19Home1TNSListener
	OracleVssWriter {SID}
	OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
	OracleRemExecServiceV2
	OracleJobScheduler {SID}
	OracleService {SID}

補足 {SID} は、データベースをインストールしたときに、[データベースのサーバー情報] 画面で「グローバルデータベース名」に入力した値から、最初の「.」（ピリオド）までの値です。「.」（ピリオド）がない場合は、入力したグローバルデータベース名そのまま表示されます。たとえば、「server1.example.com」と入力すると、{SID} には「SERVER1」と表示されます。

(3) 外部連携サーバーで、次のサービスを確認します。

インストーラーの [インストールする機能] で選択した項目	サービス
キャプチャリングサービス	ArcSuite Capturing Service
	ArcSuite Capturing Service Admin
統合検索サービス	ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
	ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
	ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

補足 インストールできる機能は、お使いの商品構成によって異なります。

1.5 サービス起動ユーザーおよびグループの確認

ArcSuiteのインストール時に設定した、ArcSuiteのサービスを起動するユーザーおよびグループの名前を確認しておきます。

サービスを起動するユーザーおよびグループは、リストアするときに必要です。

1.5.1 サービス起動ユーザー、グループとは

サービス起動ユーザーのユーザー名とパスワードは、インストール時に「サービス起動ユーザー情報」画面で指定した値です。

グループのグループ名は、インストール時に「サービス起動ユーザーのグループ情報」画面で指定した値です。

インストール時のデフォルトの値は、それぞれ次のとおりです。

- ・ユーザー名
ARCUSRSVC
- ・グループ名
ARCGRPSVC

1.5.2 サービスを起動するユーザー、グループを確認する

サービスを起動するユーザーを確認する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の「スタート」メニューから、「Windows 管理ツール」 > 「サービス」を選択します。
「サービス」画面が表示されます。
3. 起動ユーザーを確認するサービスを選択します。
補足 たとえば、「ArcSuite Basic Service」を選択します。
4. 「操作」メニューから、「プロパティ」を選択します。
「(ローカル コンピュータ) {サービス名} のプロパティ」画面が表示されます。
5. 「ログオン」タブを表示します。
6. 「アカウント」に表示されているユーザー名を確認します。

グループを確認する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「スタート」ボタンを右クリックし、「コンピューターの管理」を選択します。
「コンピューターの管理」画面が表示されます。
3. 左側のツリーで、「ローカルユーザーとグループ」 > 「グループ」を選択します。
グループの名前が表示されます。
4. 表示されているグループの中に、インストール時に指定したグループ名があるかどうかを確認します。

1.6 バックアップするデータの確認

ArcSuiteでは、次のデータのバックアップが必要です。

- ・ [インストール時および設定変更時にバックアップするデータ](#)
- ・ [定期的にバックアップするデータ](#)

「インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」は、新規のサーバーにデータをリストアするときに使います。「定期的にバックアップするデータ」は、新規のサーバー、既存のサーバーのどちらの場合でも、最近のバックアップデータを使用してバックアップデータの時点に戻って運用を再開するときに使います。インストール、再インストール、およびバージョンアップしたあとは、「インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」と「定期的にバックアップするデータ」の両方をバックアップします。それ以外の場合には、「定期的にバックアップするデータ」をバックアップします。

補足 「インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」も、「定期的にバックアップするデータ」と一緒に、毎回バックアップしておくことを推奨します。

1.6.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ

インストールした直後、再インストールした直後、およびバージョンアップした直後の設定データをバックアップします。次の設定データの格納場所を探してバックアップを実行します。

- ・ レジストリーの設定データ
- ・ データベースの設定データ
- ・ ArcSuite の設定データの「mime.types」

補足 ArcSuite の設定データの「mime.types」は、ArcSuite で使用できるデータに加えて、Microsoft Excel、Microsoft Word などのデータタイプを新規に追加しているときにファイルが作成されます。特殊なデータタイプを追加するなどのカスタマイズをしていない場合は、バックアップの必要はありません。

設定データの種類	フォルダー／ファイル名	格納場所
レジストリーの設定データ	(ArcSuiteにあるレジストリーキー)	・ %HKEY_LOCAL_MACHINE%SOFTWARE\FUJIFILM%ArcSuite ・ %HKEY_LOCAL_MACHINE%SOFTWAREWow6432Node\FUJIFILM%ArcSuite
データベースの設定データ	PWD {SID} .ora	{データベースをインストールしたドライブ} ¥ Database¥dbhome_1¥database¥ 補足 データベースのバージョンは、次の手順で確認できます。 1. [コントロールパネル] 画面で [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。 [プログラムと機能] ウィンドウが表示されます。 2. 「ArcSuiteデータベース」を選択します。 3. 画面下に表示された【製品バージョン】のバージョン番号を確認します。
	listener.ora	{データベースをインストールしたドライブ} ¥ Database¥dbhome_1¥network¥admin¥
	tnsnames.ora	
	sqlnet.ora	

設定データの種類	フォルダー／ファイル名	格納場所
ArcSuite の設定データ	mime.types 補足 ファイルが存在する場合にバックアップが必要です。	{ArcSuiteのプログラムホーム} ¥Service¥Java¥jre¥lib
	mime.types 補足 統合検索サービスがインストールされていてファイルが存在する場合にバックアップが必要です。	{ArcSuiteのプログラムホーム} ¥Client¥DocumentGatheringAgent¥Java¥jre¥lib
	mime.types 補足 キャプチャリングサービスがインストールされていて、ファイルが存在する場合にバックアップが必要です。	{ArcSuiteのプログラムホーム} ¥Client¥Capture¥Java¥jre¥lib

- 補足**
- ・ {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite」です。
 - ・ {データベースをインストールしたドライブ} のデフォルトは、「{最大容量のドライブ}」です。
 - ・ {データベースをインストールしたフォルダー} のデフォルトは、「Database」です。
 - ・ データベースのバージョンは、次の手順で確認できます。
 1. [コントロールパネル] 画面で [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。
[プログラムと機能] ウィンドウが表示されます。
 2. 「ArcSuite データベース」を選択します。
 3. 画面下に表示された [製品バージョン] のバージョン番号を確認します。

参照 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」\(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

1.6.2 定期的にバックアップするデータ

運用を開始したあとに定期的にデータをバックアップします。次のデータの格納場所を探してバックアップを実行します。

- ・ データベースの運用データ
- ・ ユーザーホームのデータ
- ・ ドキュメント管理サービスのデータ
- ・ キャプチャリングサービスのデータ
- ・ コラボスペースのデータ
- ・ ワークフローのデータ

データの種類	フォルダー／ファイル名	格納場所
データベースの運用データ	表領域のデータファイル	参照 「[表領域のデータファイル]、[一時表領域のデータファイル]、[制御ファイル]、[REDOファイル]、[サーバーパラメーターファイル]」の格納場所を確認する (P.37) を参照して、確認してください。
	一時表領域のデータファイル	
	制御ファイル	
	REDOファイル	
	サーバーパラメーターファイル	
	「diag」 フォルダー	{データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥
	「{ホスト名_SID}」 フォルダー 補足 ファイルが存在する場合にバックアップが必要です。	{データベースをインストールしたドライブ} ¥ Database¥dbhome_1¥ 補足 データベースのバージョンは、次の手順で確認できます。 1. [コントロールパネル] 画面で [プログラム] の [プログラムのアンインストール] をクリックします。 [プログラムと機能] ウィンドウが表示されます。 2. 「ArcSuiteデータベース」 を選択します。 3. 画面下に表示された [製品バージョン] のバージョン番号を確認します。
ユーザーホームのデータ	Service	
	DocumentGatheringAgent 補足 統合検索サービスがインストールされている場合にバックアップが必要です。	{統合検索サービスのユーザーホーム} ¥Client¥
	Capture 補足 キャプチャリングサービスがインストールされている場合にバックアップが必要です。	{キャプチャリングサービスのユーザーホーム} ¥ Client¥
ドキュメント管理サービスのデータ	ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー	参照 「[ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー]、[ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー]、[アーカイブ保存データの出力先]を確認する (P.38) を参照して、確認してください。
	ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー	
	アーカイブ保存データの出力先フォルダー	
キャプチャリングサービスのデータ	キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー 補足 キャプチャリングサービスがインストールされている場合にバックアップが必要です。	参照 「[キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー]を確認する (P.39) を参照して、確認してください。

データの種類	フォルダー／ファイル名	格納場所
コラボスペースのデータ	コラボスペースのインポートフォルダー 補足 コラボスペースがインストールされている場合にバックアップが必要です。	参照 「[コラボスペースのインポートフォルダー]を確認する」(P.40) を参照して、確認してください。
	コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー 補足 コラボスペースがインストールされている場合にバックアップが必要です。	参照 「[コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー]を確認する」(P.40) を参照して、確認してください。
ワークフローのデータ	外部コマンドの配置フォルダーおよび実行ファイル	参照 「[外部コマンドの配置フォルダー]を確認する」(P.41) を参照して、確認してください。

- 補足**
- ・ {ArcSuite のユーザーホーム}、{統合検索サービスのユーザーホーム}、および {キャプチャリングサービスのユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」です。
 - ・ {データベースをインストールしたドライブ} のデフォルトは、「{最大容量のドライブ}」です。
 - ・ {データベースをインストールしたフォルダー} のデフォルトは、「Database」です。

「表領域のデータファイル」、「一時表領域のデータファイル」、「制御ファイル」、「REDO ファイル」、「サーバーパラメータファイル」の格納場所を確認する

バックアップを実行する前にデータの格納先を確認しておきます。

注記 ここで説明する手順は、バックアップのためにサービスを停止した状態で実行するとエラーになります。次のサービスが開始している必要があります。コマンドを実行する前に、次のサービスが開始していることを確認してください。

- ・ OracleOraDB19Home1TNSListener
- ・ OracleService {SID}

参照 サービスを起動する方法は、[「第2部 オフラインバックアップ」](#)の[「2.5 サービスの起動」\(P.50\)](#)を参照してください。

1. データベースがインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥tools_4.0
```

- 補足**
- ・ {データベースをインストールしたドライブ} のデフォルトは、「{最大容量のドライブ}」です
 - ・ {データベースをインストールしたフォルダー} のデフォルトは、「Database」です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cscript //nologo list-dbfiles.wsf
```

[バックアップ対象のファイル一覧が、{データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥tools_4.0] に「dbfiles.txt」の名前で出力されます。

5. 「dbfiles.txt」ファイルを開いて、「表領域のデータファイル」、「一時表領域のデータファイル」、「制御ファイル」、「REDO ファイル」、および「サーバーパラメータファイル」の格納場所を確認します。

注記 「{データベースをインストールしたドライブ} :¥ {データベースをインストールしたフォルダー} ¥tools_4.0] に、「dbfiles.txt」と同じ名前のファイルを保存しないでください。コマンド実行時に上書きされます。

参照 「dbfiles.txt」ファイルの例は、[「付録C 「dbfiles.txt」ファイルの出力例」\(P.122\)](#)を参照してください。

「ドローのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」、「アーカイブ保存データの出力先」を確認する

バックアップを実行する前にデータの格納先を確認しておきます。

注記 ここで説明する手順は、バックアップのためにサービスを停止した状態で実行するとエラーになります。次のサービスが開始している必要があります。コマンドを実行する前に次のサービスが開始していることを確認してください。

・ ArcSuite Repository Master Admin Service

参照 サービスを起動する方法は、[「第2部 オフラインバックアップ」](#)の[「2.5 サービスの起動」\(P.50\)](#)を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Components%Repository%bin%
```

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、[C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite] です。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
dradmincmd.bat
```

次のメッセージが表示されます。

```
コマンド実行ユーザーを設定してください。  
userName =
```

5. ドキュメント管理サービス管理者のユーザー名を入力して、<Enter> キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

```
userPasswd =
```

6. ドキュメント管理サービス管理者のパスワードを入力して、<Enter> キーを押します。

次のメッセージが表示されます。

インタラクティブモードで、管理コマンドを実行します。
利用可能なコマンドの種類は、マニュアルかヘルプ (help) コマンドで確認してください。

```
operation =
```

7. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

```
listBackupTargetStorages
```

次のメッセージが表示されます。

```
[ outputFile ] =
```

補足 操作の詳細は、『ドキュメント管理サービス管理者ガイド』を参照してください。

8. 「ドローのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」、および「アーカイブ保存データの出力先」が記述された一覧ファイルの出力先とファイル名を入力して、<Enter> キーを押します。

```
[ outputFile ] = {一覧ファイルの出力先} ¥ {ファイル名} .txt
```

指定した階層に、「ドローのストレージパスに指定したフォルダー」、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」、「アーカイブ保存データの出力先」の一覧ファイルが保存されます。

注記 {一覧ファイルの出力先} および {ファイル名} には、英数字を使用してください。

補足 [{一覧ファイルの出力先} ¥ {ファイル名} .txt] の例は、次のとおりです。

```
[E:¥BackupList¥storageList.txt]
```

9. 出力されたファイルを開いて、フォルダー階層を確認します。

補足 記述されているすべてのフォルダーがバックアップの対象になります。

「キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー」を確認する

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「{ArcSuite のユーザーホーム} ¥Client¥Capture¥conf¥Capture」フォルダーの「config.csv」を表示します。

補足 {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」です。

3. 「QueuePath」に定義されているフォルダーを確認します。

「コラボスペースのインポートフォルダー」を確認する

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。
2. [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
3. [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[コラボスペース] をクリックします。
画面の右側に、コラボスペースの情報が表示されます。
4. [このシステム] から [コラボスペース (サーバー名)] を選択します。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。
ログインに成功すると、[コラボスペース管理] メニューが表示されます。
7. 左側のツリーから、[ファイルインポート設定] リンクをクリックします。
[ファイルインポート設定] ページが表示されます。
8. [インポートフォルダのルートディレクトリ] のパスを確認します。

「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」を確認する

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。
2. [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
3. [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[コラボスペース] をクリックします。
画面の右側に、コラボスペースの情報が表示されます。
4. [このシステム] から [コラボスペース (サーバー名)] を選択します。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。
ログインに成功すると、[コラボスペース管理] メニューが表示されます。
7. 左側のツリーから、[タスク設定] を選択します。
[タスク設定] 画面が表示されます。
8. [タスクアーカイブ出力先] のパスを確認します。

「外部コマンドの配置フォルダー」を確認する

1. Web ブラウザーを起動し、ArcSuite の URL にアクセスします。
2. [ポータル] 画面で、[システム管理] リンクをクリックします。
[システム管理] 画面が表示されます。
3. [システム管理] 画面の左側にある [システム管理] から、[ワークフロー] をクリックします。
画面の右側に、ワークフローの情報が表示されます。
4. [このシステム] から [ワークフロー ({サーバー名})] を選択します。
[管理ログイン] 画面が表示されます。
5. 管理者権限を持つユーザーの [ユーザー ID] と [パスワード] を入力します。
6. [ログイン] をクリックします。
ログインに成功すると、[ワークフロー管理] メニューが表示されます。
7. 左側のツリーから、[外部コマンド] リンクをクリックします。
[外部コマンド一覧] ページが表示されます。
8. [外部コマンドの配置フォルダ] に表示されているフォルダーを確認します。
9. 外部コマンドの設定ファイルと実行ファイルとが異なるフォルダーに格納されていないかを、次の手順で確認します。
 - (1) 手順 8 で確認したフォルダーを、Windows のエクスプローラーで開きます。
 - (2) 設定ファイル「command.xml」を、テキストエディターなどで開きます。
 - (3) exe や bat など、外部コマンドで実行するファイルが格納されているフォルダーが、手順 8 で確認したフォルダーと異なるかどうかを確認します。
異なる場合は、外部コマンドで実行するファイルが格納されているフォルダーも、定期的にバックアップします。

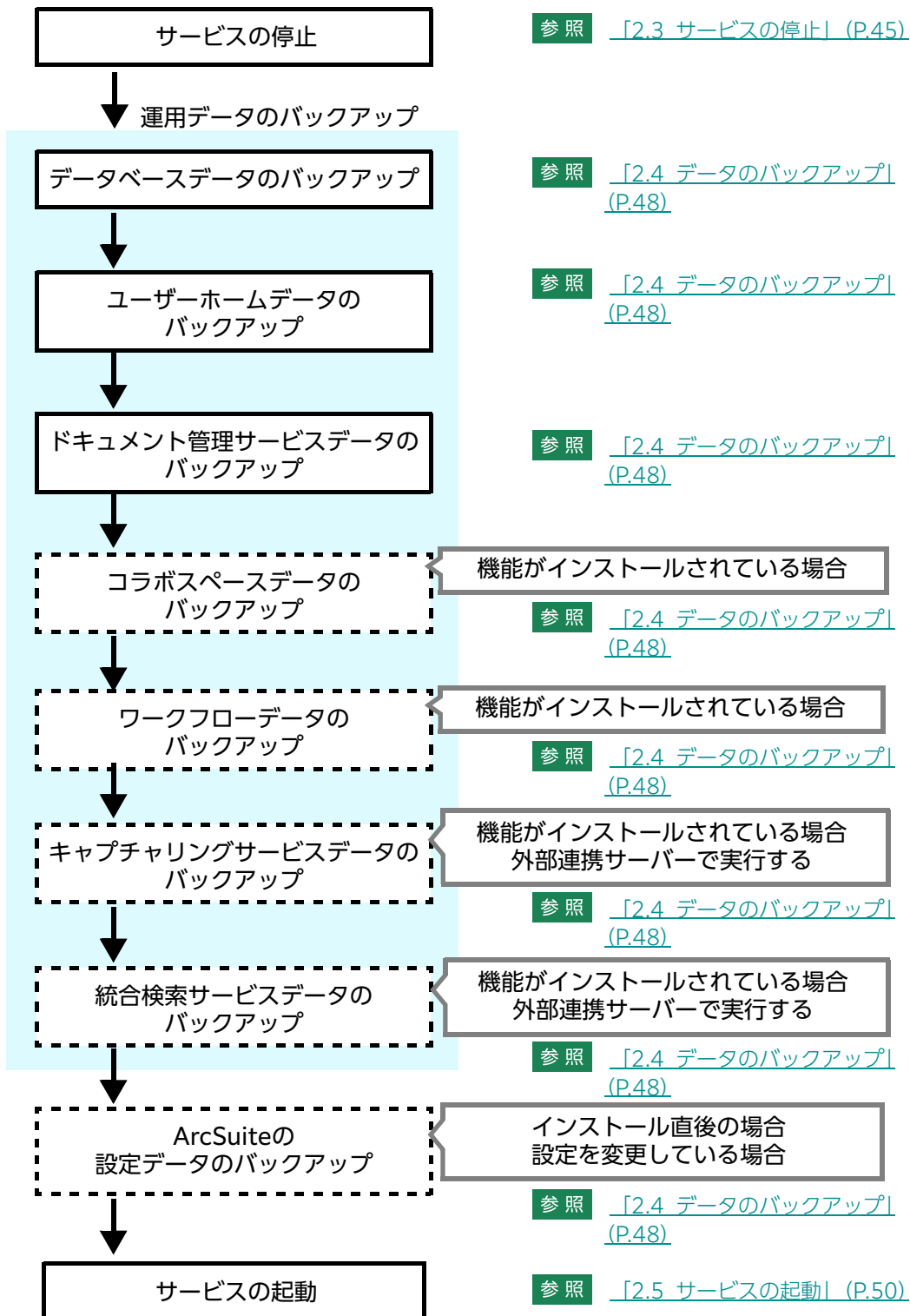


2 バックアップの操作

オフラインバックアップの作業手順を説明します。

2.1 オフラインバックアップ作業の流れ

オフラインでバックアップを実行する場合には、ArcSuiteの運用を中断し、すべてのサービスを停止します。そのあと、[「第2部 オフラインバックアップ」](#)の[「1.6.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」](#) (P.33) で確認したデータ、および[「第2部 オフラインバックアップ」](#)の[「1.6.2 定期的にバックアップするデータ」](#) (P.34) で確認したデータのバックアップを実行します。



2.2 バックアップするときに注意すること

ArcSuiteのサービスを停止したあと、バックアップを実行し、ArcSuite のサービスを開始するまでの操作では、次の点に注意してください。

■ バックアップを開始する前

- ・ ArcSuite のサービスが停止していることを確認する
サービスの停止とバックアップの開始を別々にスケジュールしている場合や、なんらかの影響でサービスの停止に時間がかかった場合など、サービスが停止していない状態でバックアップを開始してしまうと、バックアップデータの整合性が取れません。

■ ArcSuite のサービスを開始する前

- ・ バックアップが完了していることを確認する
バックアップが完了していない状態で、ArcSuite のサービスを開始すると、サービスの開始処理に失敗することがあります。

2.3 サービスの停止

インストールされているArcSuiteのすべてのサービスを停止します。

2.3.1 オールインワン構成のサーバーでサービスを停止する

オールインワン構成のサーバーでArcSuiteのサービスを停止するには、はじめに外部連携サーバーのサービスを停止します。そのあと、本体サーバーのサービスを停止します。

注記 各サービスは決められた順序で停止する必要があります。

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを停止します。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
 - (1) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy
 - (2) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
 - (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
 - (4) ArcSuite Capturing Service Admin
 - (5) ArcSuite Capturing Service
4. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
5. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
6. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
 - (1) World Wide Web Publishing Service
 - (2) ArcSuite Monitoring Service
 - (3) ArcSuite Web Application Service
 - (4) ArcSuite Collabo Service
 - (5) ArcSuite Repository Service
 - (6) ArcSuite Repository Master Admin Service
 - (7) ArcSuite kSearchDuo Service
 - (8) ArcSuite Full Text Search Service
 - (9) ArcSuite Basic Service
 - (10) Fx Doc Cnv Helper
 - (11) DocuWorks Print Service
 - (12) OracleService {SID}

(13) OracleOraDB19Home1TNSListener

参照 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「1.4.1 ArcSuiteに関連するサービスを認する」\(P.29\)](#)で説明しています。参照してください。

2.3.2 2 台構成のサーバーでサービスを停止する

2台構成のサーバーでArcSuiteのサービスを停止するには、はじめに外部連携サーバーのサービスを停止します。そのあと、コンポーネントサーバーのサービスを停止し、リポジトリサーバーのサービスを停止します。

注記 各サービスは決められた順序で停止する必要があります。

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを停止します。

参照 コンポーネントサーバーの構成、リポジトリサーバーの構成については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「1.2.2 2 台構成」\(P.27\)](#)を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
 - (1) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy
 - (2) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
 - (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
 - (4) ArcSuite Capturing Service Admin
 - (5) ArcSuite Capturing Service
4. ArcSuite がインストールされているコンポーネントサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
5. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
6. 次のサービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
 - (1) World Wide Web Publishing Service
 - (2) ArcSuite Monitoring Service
 - (3) ArcSuite Web Application Service
 - (4) ArcSuite Collabo Service
 - (5) ArcSuite kSearchDuo Service
 - (6) ArcSuite Full Text Search Service
 - (7) ArcSuite Basic Service
 - (8) FX Doc Cnv Helper
 - (9) DocuWorks Print Service

7. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
8. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
9. 次のサービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
 - (1) ArcSuite Monitoring Service
 - (2) ArcSuite Repository Service
 - (3) ArcSuite Repository Master Admin Service
 - (4) ArcSuite Basic Service
 - (5) FX Doc Cnv Helper
 - (6) DocuWorks Print Service
 - (7) OracleService {SID}
 - (8) OracleOraDB19Home1TNSListener

参照 {SID} については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\] の「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」\(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

2.4 データのバックアップ

サービスを停止したあと、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「1.6 バックアップするデータの確認」\(P.33\)](#)で確認したデータを、バックアップソフトウェアなどを使用してバックアップします。

参照 レジストリーをバックアップする方法は、[\[付録 B.1 レジストリーをバックアップする\]\(P.121\)](#)を参照してください。

ArcSuiteをインストールしたとき、再インストールやバージョンアップで設定を変更したとき、または定期的にバックアップをするときに必要なデータは、次のとおりです。

ArcSuite をインストールしたとき

次のデータをバックアップします。

- ・ レジストリーの設定データ
- ・ データベースの設定データ
- ・ ArcSuite の設定データ
- ・ データベースの運用データ
- ・ ユーザーホームのデータ
- ・ ドキュメント管理サービスのデータ
- ・ コラボスペースのデータ
- ・ ワークフローのデータ
- ・ キャプチャリングサービスのデータ

補足 次のデータは機能がインストールされている場合にバックアップが必要です。

- ・ ユーザーホームの「DocumentGatheringAgent」フォルダー（統合文書検索サービスのデータフォルダー）
- ・ ユーザーホームの「Capture」フォルダー（キャプチャリングサービスのデータフォルダー）
- ・ コラボスペースのデータ
- ・ キャプチャリングサービスのデータ

参照 インストールしたときにバックアップが必要なデータの格納場所は、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「1.6.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」\(P.33\)](#)を参照してください。

ArcSuite の設定を変更したとき

次のデータをバックアップします。

- ・ レジストリーの設定データ
- ・ データベースの設定データ
- ・ ArcSuite の設定データ

参照 設定を変更したときにバックアップが必要なデータの格納場所は、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「1.6.1 インストール時および設定変更時にバックアップするデータ」\(P.33\)](#)を参照してください。

定期的にバックアップを実行するとき

次のデータをバックアップします。

- ・ データベースの運用データ
- ・ ユーザーホームのデータ
- ・ ドキュメント管理サービスのデータ
- ・ コラボスペースのデータ
- ・ ワークフローのデータ
- ・ キャプチャリングサービスのデータ

補足 次のデータは機能がインストールされている場合にバックアップが必要です。

- ・ ユーザーホームの「DocumentGatheringAgent」フォルダー（統合文書検索サービスのデータフォルダー）
- ・ ユーザーホームの「Capture」フォルダー（キャプチャリングサービスのデータフォルダー）
- ・ コラボスペースのデータ
- ・ キャプチャリングサービスのデータ

参照 定期的にバックアップをするときに必要なデータの格納場所は、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[\[1.6.2 定期的にバックアップするデータ\] \(P.34\)](#)を参照してください。

2.5 サービスの起動

インストールされているArcSuiteのすべてのサービスを起動します。

2.5.1 オールインワン構成のサーバーでサービスを起動する

オールインワン構成のサーバーでArcSuiteのサービスを起動するには、はじめに本体サーバーのサービスを起動します。そのあと、外部連携サーバーのサービスを起動します。

- 注記**
- ・各サービスは、決められた順序で起動してください。
 - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
 - OracleVssWriter {SID}
 - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
 - OracleRemExecServiceV2
 - OracleJobScheduler {SID}

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
 - (1) OracleOraDB19Home1TNSListener
 - (2) OracleService {SID}
 - (3) DocuWorks Print Service
 - (4) Fx Doc Cnv Helper
 - (5) ArcSuite Basic Service
 - (6) ArcSuite Full Text Search Service
 - (7) ArcSuite kSearchDuo Service
 - (8) ArcSuite Repository Master Admin Service
 - (9) ArcSuite Repository Service
 - (10) ArcSuite Collabo Service
 - (11) ArcSuite Web Application Service
 - (12) ArcSuite Monitoring Service
 - (13) World Wide Web Publishing Service

参照 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の「[1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する](#)」(P.29) で説明しています。参照してください。

4. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
5. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
6. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。

- (1) ArcSuite Capturing Service
- (2) ArcSuite Capturing Service Admin
- (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
- (4) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
- (5) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

2.5.2 2 台構成のサーバーでサービスを起動する

2台構成のサーバーでArcSuiteのサービスを起動するには、はじめにリポジトリサーバーのサービスを起動し、コンポーネントサーバーのサービスを起動します。そのあと、外部連携サーバーのサービスを起動します。

- 注記**
- ・各サービスは決められた順序で起動してください。
 - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
 - OracleVssWriter {SID}
 - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
 - OracleRemExecServiceV2
 - OracleJobScheduler {SID}

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

参照 コンポーネントサーバー、リポジトリサーバーの構成については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[\[1.2.2 2 台構成\] \(P.27\)](#)を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。

3. 次のサービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。

- (1) OracleOraDB19Home1TNSListener
- (2) OracleService {SID}
- (3) DocuWorks Print Service
- (4) FX Doc Cnv Helper
- (5) ArcSuite Basic Service
- (6) ArcSuite Repository Master Admin Service
- (7) ArcSuite Repository Service
- (8) ArcSuite Monitoring Service

参照 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[\[1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する\] \(P.29\)](#)で説明しています。参照してください。

4. ArcSuite のコンポーネントサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

5. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。

6. 次のサービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。

- (1) DocuWorks Print Service

- (2) FX Doc Cnv Helper
- (3) ArcSuite Basic Service
- (4) ArcSuite Full Text Search Service
- (5) ArcSuite kSearchDuo Service
- (6) ArcSuite Collabo Service
- (7) ArcSuite Web Application Service
- (8) ArcSuite Monitoring Service
- (9) World Wide Web Publishing Service

7. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

8. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。

9. [サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。次の順序で起動します。

- (1) ArcSuite Capturing Service
- (2) ArcSuite Capturing Service Admin
- (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
- (4) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
- (5) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

第3部 リストア-既存のサーバーの場合

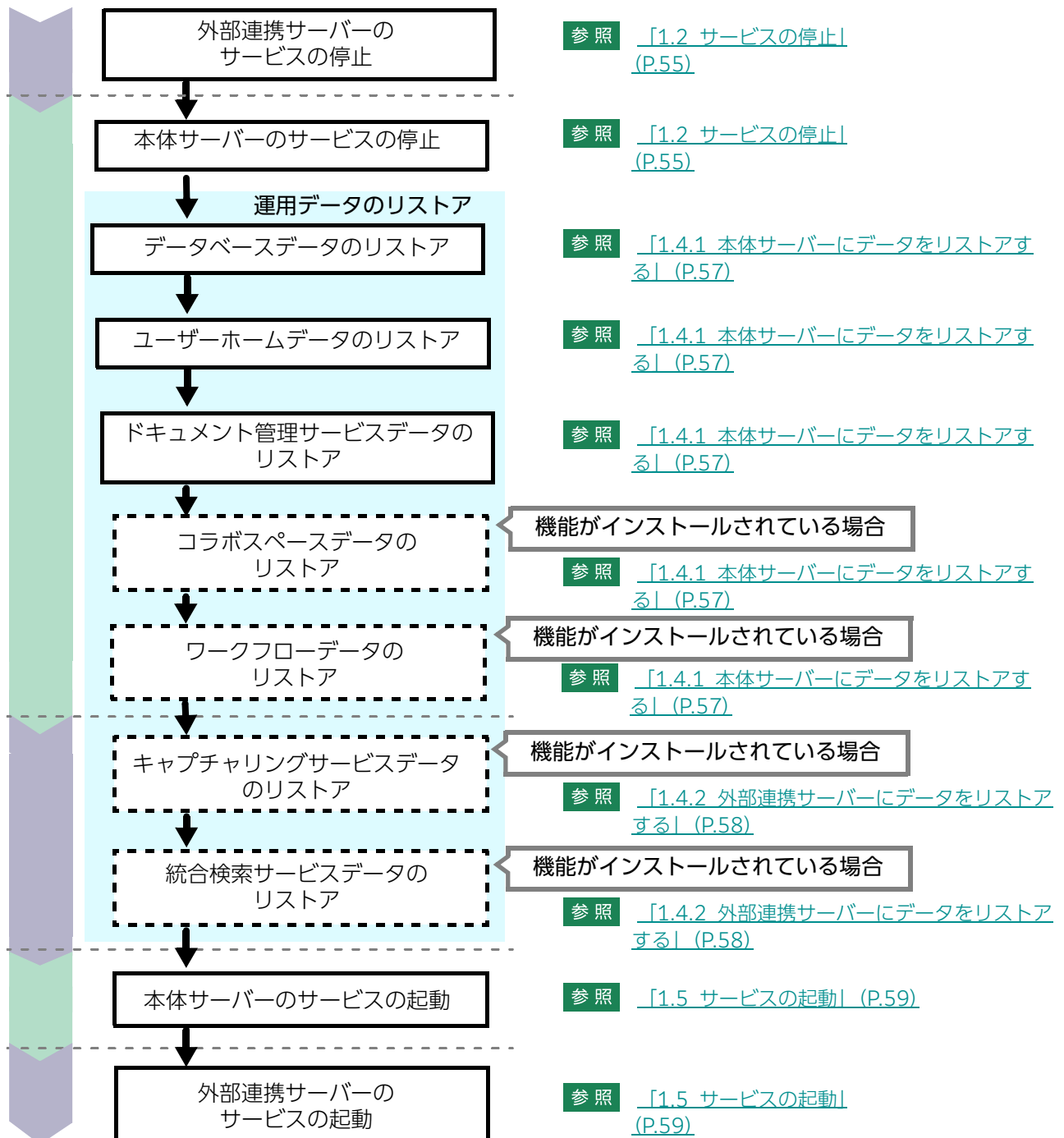
1 オールインワン構成のサーバーの場合

システム構成がオールインワン構成で、既存のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

1.1 リストア作業の流れ

オールインワン構成のサーバーにバックアップデータをリストアする作業の流れは、次のとおりです。

- ：本体サーバーの操作
■：外部連携サーバーの操作



1.2 サービスの停止

ArcSuiteのすべてのサービスを停止します。はじめに外部連携サーバーのサービスを停止し、そのあと、本体サーバーのサービスを停止します。

参照 サービスを停止する手順は、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「2.3.1 オールインワン構成のサーバーでサービスを停止する」\(P.45\)](#)を参照してください。

1.2.1 データベースサービスが停止していることを確認する

データベースサービスが停止していることを確認します。

- 1.** ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
- 2.** Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
- 3.** サービスが停止していることを確認します。
 - (1) [OracleService {SID}] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。
 - (2) [OracleOraDB19Home1TNSListener] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。

参照 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「1.4.1 ArcSuiteに関連するサービスを確認する」\(P.29\)](#)で説明しています。参照してください。

1.3 リストアの対象となるデータ

次のバックアップデータをリストアします。

データベースの運用データ

- ・ 表領域のデータファイル
- ・ 一時表領域のデータファイル
- ・ 制御ファイル
- ・ REDO ファイル
- ・ サーバーパラメーターファイル
- ・ 「diag」 フォルダー
- ・ 「{ホスト名_SID}」 フォルダー
- ・ 「sysman」 フォルダー

ユーザーホームのデータ

- ・ 「Service」 フォルダー
- ・ 「DocumentGatheringAgent」 フォルダー
- ・ 「Capture」 フォルダー

- 補足**
- ・ 「Service」 フォルダーは、「{ArcSuite のユーザーホーム}」にあります。
 - ・ 「DocumentGatheringAgent」 フォルダーは、統合検索サービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{統合検索サービスのユーザーホーム} ¥Client」 フォルダーにあります。
 - ・ 「Capture」 フォルダーは、キャプチャリングサービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{キャプチャリングサービスのユーザーホーム} ¥Client」 フォルダーにあります。
 - ・ {ArcSuite のユーザーホーム、{統合検索サービスのユーザーホーム}、および {キャプチャリングサービスのユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」 です。

ドキュメント管理サービスのデータ

- ・ ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー
- ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー
- ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダー

コラボスペースのデータ

- ・ コラボスペースのインポートフォルダー
- ・ コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー

ワークフローのデータ

- ・ 外部コマンドの配置フォルダー

キャプチャリングサービスのデータ

- ・ キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー

1.4 バックアップデータのリストア

バックアップデータをリストアするには、はじめに本体サーバーのデータをリストアし、そのあと、外部連携サーバーのデータをリストアします。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[「第2部 オフラインバックアップ」](#)の[「1.6.2 定期的にバックアップするデータ」\(P.34\)](#)を参照してください。

1.4.1 本体サーバーにデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. バックアップデータをリストアします。
 - ◆ データベースの運用データをリストアする
 - (1) データベース運用データのバックアップデータを、それぞれ決められた格納場所に、バックアップしたときと同じアクセス権でリストア（コピー）します。
 - ◆ ユーザーホームのデータをリストアする
 - (1) 「Service」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。
 - ◆ ドキュメント管理サービスデータをリストアする
 - (1) ドキュメント管理サービスのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

補足 ドキュメント管理サービスの次のデータをリストアします。

 - ・ ドロワーのストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
 - ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
 - ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダーのデータすべて
 - ◆ コラボスペースのデータをリストアする

注記 データをリストアしてバックアップデータの時点まで戻り、運用を再開した場合は、バックアップを実行したあとの運用で発信された通知メールでの操作が、次のような状態になることがあります。

 - ・ 通知メール内の URL をクリックしても、タスクが表示されない
 - ・ メール内容とは異なるタスクや、文書が表示される
 - ・ 通知メールに返信すると、該当するタスク以外のタスクに返信メッセージが記述される
 - (1) コラボスペースのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。
 - ◆ ワークフローのデータをリストアする
 - (1) ワークフローのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

1.4.2 外部連携サーバーにデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. バックアップデータをリストアします。

◆ キャプチャリングサービスのデータをリストアする

(1) 監視キューのフォルダーがすでに存在する場合は、削除します。

補足 監視キューのフォルダーが存在しない場合は、手順 2 に進みます。

(2) 「キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー」のバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

◆ ユーザーホームのデータをリストアする

(1) 「Capture」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

(2) 「DocumentGatheringAgent」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

1.5 サービスの起動

ArcSuiteのすべてのサービスを起動します。はじめに本体サーバーのサービスを起動し、そのあと、外部連携サーバーのサービスを起動します。

参照 サービスを起動する手順は、[「第2部 オフラインバックアップ」の「2.5.1 オールインワン構成のサーバーでサービスを起動する」\(P.50\)](#)を参照してください。



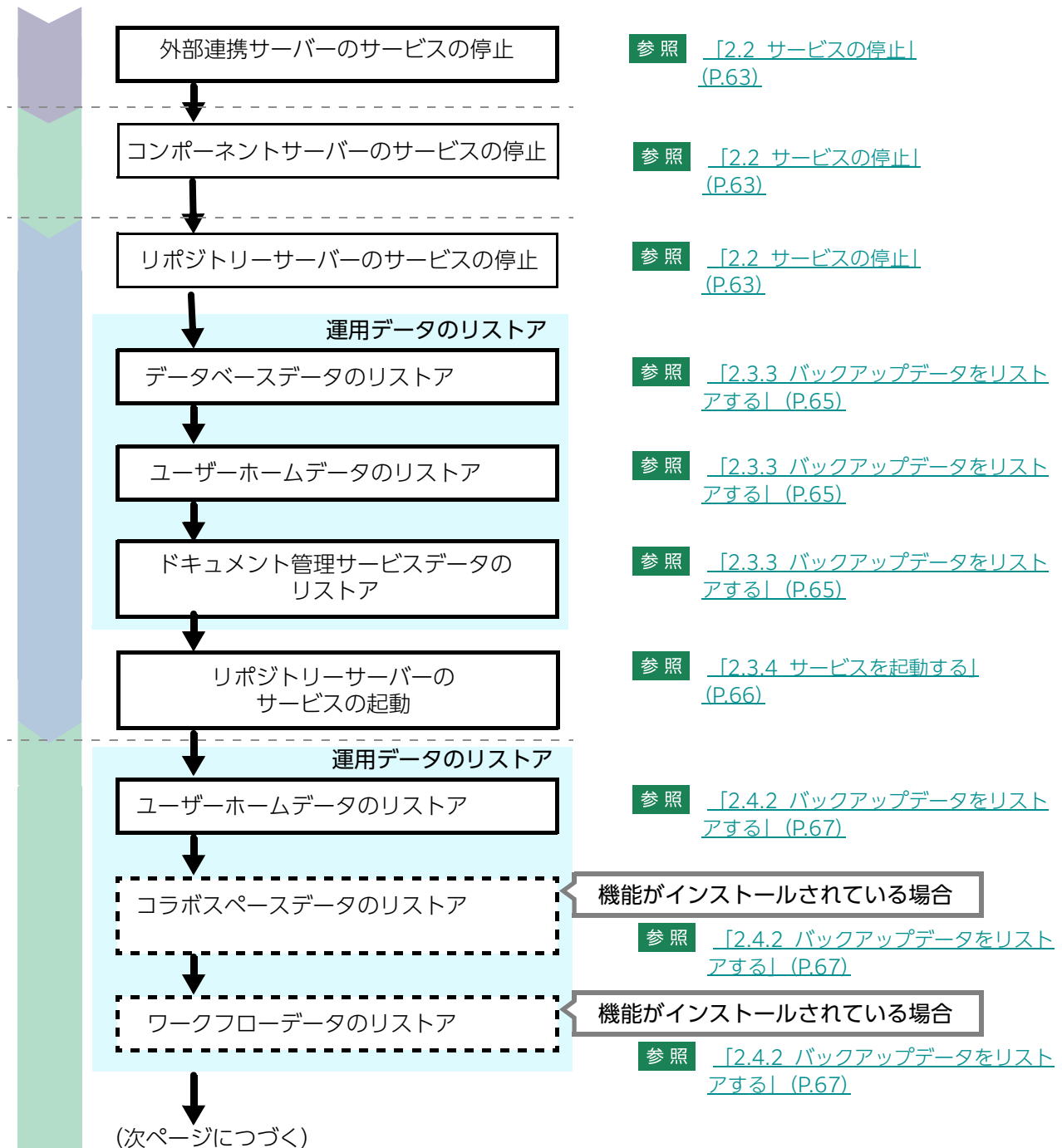
2 2台構成のサーバーの場合

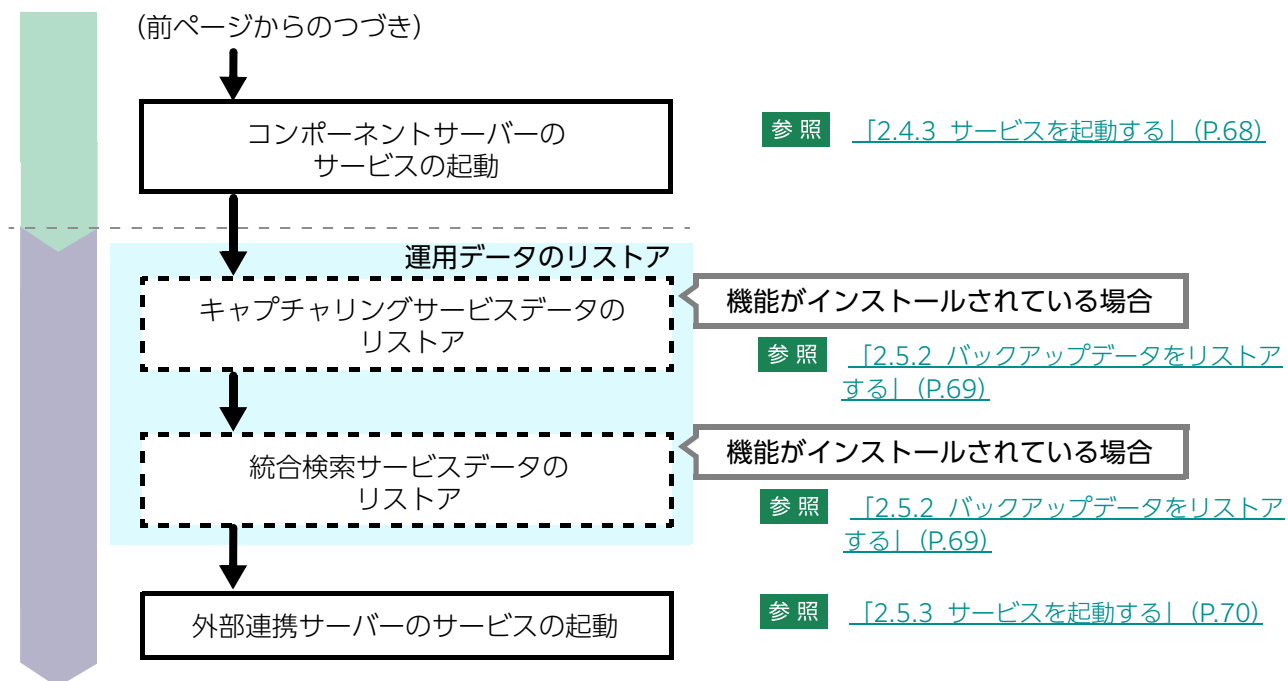
システム構成が2台構成で、既存のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

2.1 リストア作業の流れ

2台構成のサーバーにバックアップデータをリストアする作業の流れは、次のとおりです。

- : コンポーネントサーバーの操作
- : リポジトリサーバーの操作
- : 外部連携サーバーの操作





2.2 サービスの停止

ArcSuiteのすべてのサービスを停止します。はじめに外部連携サーバーのサービスを停止します。そのあと、コンポーネントサーバー、リポジトリサーバーの順にサービスを停止します。

参照 サービスを停止する手順は、[「第2部 オフラインバックアップ」](#)の[「2.3.2 2台構成のサーバーでサービスを停止する」 \(P.46\)](#)を参照してください。

2.3 リポジトリサーバーでの操作

リポジトリサーバーでは、次の操作をします。

- ・ [データベースサービスが停止していることを確認する](#)
- ・ [バックアップデータをリストアする](#)
- ・ [サービスを起動する](#)

2.3.1 リストアの対象となるデータ

リポジトリサーバーには、次のバックアップデータをリストアします。

データベースの運用データ

- ・ 表領域のデータファイル
- ・ 一時表領域のデータファイル
- ・ 制御ファイル
- ・ REDO ファイル
- ・ サーバーパラメーターファイル
- ・ 「diag」 フォルダー
- ・ 「{ホスト名_SID}」 フォルダー
- ・ 「sysman」 フォルダー

ユーザーホームのデータ

- ・ 「Service」 フォルダー

補 足 ・ 「Service」 フォルダーは、「{ArcSuite のユーザーホーム}」にあります。
・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」です。

ドキュメント管理サービスのデータ

- ・ ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー
- ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー
- ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダー

2.3.2 データベースサービスが停止していることを確認する

データベースサービスが停止していることを確認します。

1. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスが停止していることを確認します。
 - (1) [OracleService {SID}] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。
 - (2) [OracleOraDB19Home1TNSListener] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。

補足 {SID} については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを認する」 \(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

2.3.3 バックアップデータをリストアする

リポジトリサーバーに、バックアップデータをリストアします。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.6.2 定期的にバックアップするデータ」 \(P.34\)](#) を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. バックアップデータをリストアします。
 - ◆ **データベースの運用データをリストアする**
 - (1) データベース運用データのバックアップデータを、それぞれ決められた格納場所に、バックアップしたときと同じアクセス権でリストア（コピー）します。
 - ◆ **ユーザーホームのデータをリストアする**
 - (1) [Service] フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。
 - ◆ **ドキュメント管理サービスデータをリストアする**
 - (1) ドキュメント管理サービスのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

補足 ドキュメント管理サービスの次のデータをリストアします。

- ・ ドロワーのストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
- ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
- ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダーのデータすべて

2.3.4 サービスを起動する

リポジトリサーバーのサービスを起動します。

- 注 記**
- ・各サービスは決められた順序で起動してください。
 - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
 - OracleVssWriter {SID}
 - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
 - OracleRemExecServiceV2
 - OracleJobScheduler {SID}

補 足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

1. ArcSuite のリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. 次のサービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
 - (1) OracleOraDB19Home1TNSListener
 - (2) OracleService {SID}
 - (3) DocuWorks Print Service
 - (4) FX Doc Cnv Helper
 - (5) ArcSuite Basic Service
 - (6) ArcSuite Repository Master Admin Service
 - (7) ArcSuite Repository Service
 - (8) ArcSuite Monitoring Service

参 照 {SID} については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確
認する」 \(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

2.4 コンポーネントサーバーでの操作

コンポーネントサーバーでは、次の操作をします。

- ・ [バックアップデータをリストアする](#)
- ・ [サービスを起動する](#)

2.4.1 リストアの対象となるデータ

コンポーネントサーバーには、次のバックアップデータをリストアします。

ユーザーホームのデータ

- ・ 「Service」 フォルダー

補足 ・ 「Service」 フォルダーは、「{ArcSuite のユーザーホーム}」にあります。
・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」 です。

コラボスペースのデータ

- ・ コラボスペースのインポートフォルダー
- ・ コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー

ワークフローのデータ

- ・ 外部コマンドの配置フォルダー

2.4.2 バックアップデータをリストアする

コンポーネントサーバーに、バックアップデータをリストアします。

注記 データをリストアしてバックアップデータの時点まで戻り、運用を再開した場合は、バックアップを実行したあとの運用で発信された通知メールでの操作が、次のような状態になることがあります。

- ・ 通知メール内の URL をクリックしても、タスクが表示されない
- ・ メール内容とは異なるタスクや、文書が表示される
- ・ 通知メールに返信すると、該当するタスク以外のタスクに返信メッセージが記述される

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.6.2 定期的にバックアップするデータ」 \(P.34\)](#) を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされているコンポーネントサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. バックアップデータをリストアします。
 - ◆ **ユーザーホームのデータをリストアする**
 - (1) 「Service」 フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。
 - ◆ **コラボスペースのデータをリストアする**
 - (1) コラボスペースのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

◆ ワークフローのデータをリストアする

- (1) ワークフローのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーに、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

2.4.3 サービスを起動する

コンポーネントサーバーのサービスを起動します。

注 記 各サービスは決められた順序で起動してください。

補 足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

1. ArcSuite がインストールされているコンポーネントサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. 次のサービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
 - (1) DocuWorks Print Service
 - (2) FX Doc Cnv Helper
 - (3) ArcSuite Basic Service
 - (4) ArcSuite Full Text Search Service
 - (5) ArcSuite kSearchDuo Service
 - (6) ArcSuite Collabo Service
 - (7) ArcSuite Web Application Service
 - (8) ArcSuite Monitoring Service
 - (9) World Wide Web Publishing Service

2.5 外部連携サーバーでの操作

外部連携サーバーでは、次の操作をします。

- ・ [バックアップデータをリストアする](#)
- ・ [サービスを起動する](#)

2.5.1 リストア対象となるデータ

外部連携サーバーには、次のバックアップデータをリストアします。

ユーザーホームのデータ

- ・ 「DocumentGatheringAgent」 フォルダー
- ・ 「capture」 フォルダー

- 補足**
- ・ 「DocumentGatheringAgent」 フォルダーは、統合検索サービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{統合検索サービスのユーザーホーム} ¥Client」 フォルダーにあります。
 - ・ 「Capture」 フォルダーは、キャプチャリングサービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{キャプチャリングサービスのユーザーホーム} ¥Client」 フォルダーにあります。
 - ・ {統合検索サービスのユーザーホーム}、および {キャプチャリングサービスのユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」 です。

キャプチャリングサービスのデータ

- ・ キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー

2.5.2 バックアップデータをリストアする

外部連携サーバーに、バックアップデータをリストアします。

- 参照** リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.6.2 定期的にバックアップするデータ」 \(P.34\)](#) を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. バックアップデータをリストアします。

◆ ユーザーホームのデータをリストアする

- (1) 「Service」 フォルダーのバックアップを、決められた格納場所に、バックアップしたときと同じアクセス権でリストア（コピー）します。

◆ キャプチャリングサービスのデータをリストアする

- (1) 監視キューのフォルダーがすでに存在する場合は、削除します。

補足 監視キューのフォルダーが存在しない場合は、手順 [2](#) に進みます。

- (2) 「キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー」のバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

- (3) 「Capture」 フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときと同じアクセス権でリストア（コピー）します。

◆ 統合検索サービスのデータをリストアする

- (1) 「DocumentGatheringAgent」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所に、バックアップしたときにフォルダー、ファイルに付いていたアクセス権と同じアクセス権で、リストア（コピー）します。

2.5.3 サービスを起動する

外部連携サーバーのサービスを起動します。

注 記 各サービスは決められた順序で起動してください。

補 足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. [サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。次の順序で起動します。
 - (1) ArcSuite Capturing Service
 - (2) ArcSuite Capturing Service Admin
 - (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
 - (4) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
 - (5) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

第4部 リストア-新規のサーバーの場合

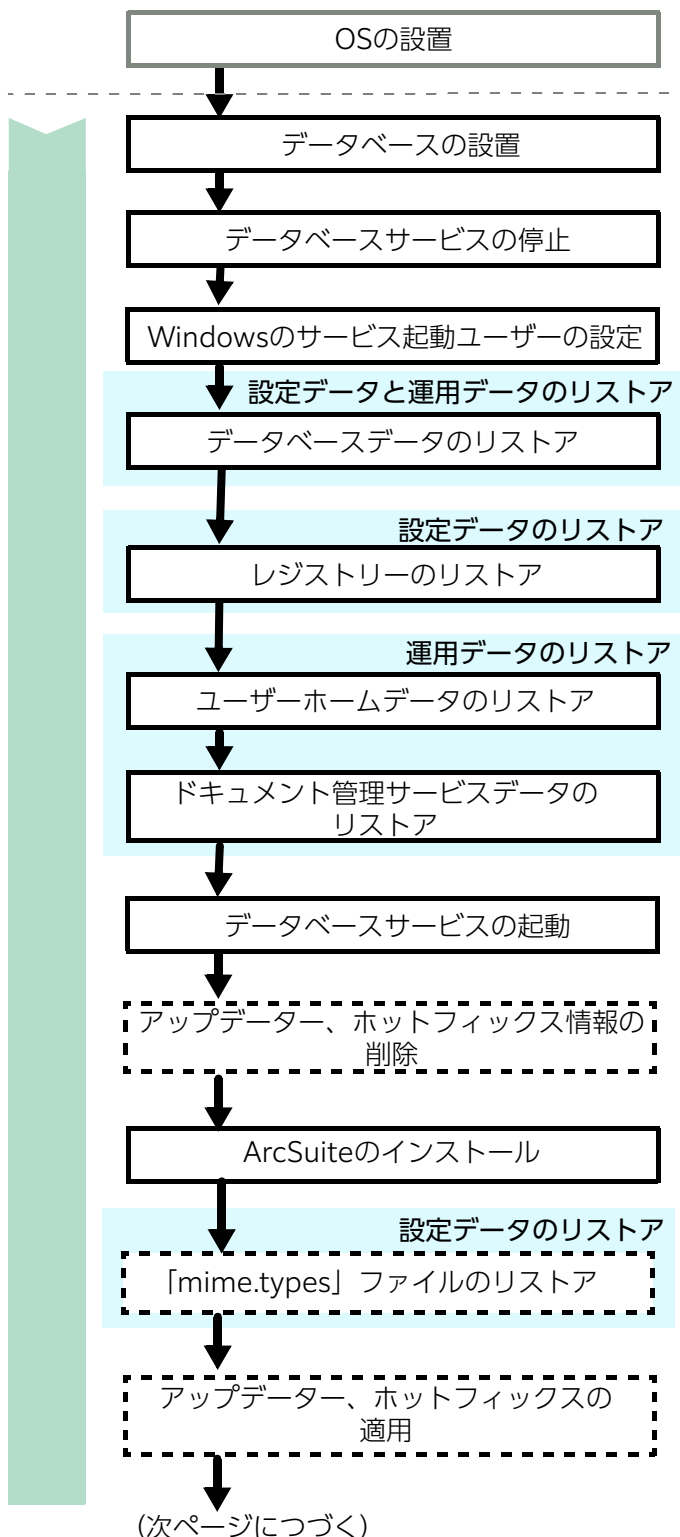
1 オールインワン構成のサーバーの場合

システム構成がオールインワン構成で、新規のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

1.1 リストア作業の流れ

オールインワン構成の新規のサーバーにバックアップデータをリストアするには、あらかじめOSを設置します。そのあと、データベースを設置して、バックアップデータをリストアします。そのあと、ArcSuiteをインストールし、バックアップデータのリストアと各種の設定を実行します。

- : 本体サーバーの操作
■ : 外部連携サーバーの操作



参照 [「1.3 新規のサーバーで実施しておくこと」 \(P.75\)](#)

参照 [「1.4 データベースの設置」 \(P.76\)](#)

参照 [「1.5 データベースのサービスの停止」 \(P.77\)](#)

参照 [「1.7 Windowsのサービス起動ユーザーの設定」 \(P.80\)](#)

参照 [「1.8.1 本体サーバーにデータをリストアする」 \(P.83\)](#)

参照 [「1.8.1 本体サーバーにデータをリストアする」 \(P.83\)](#)

参照 [「1.8.1 本体サーバーにデータをリストアする」 \(P.83\)](#)

参照 [「1.8.1 本体サーバーにデータをリストアする」 \(P.83\)](#)

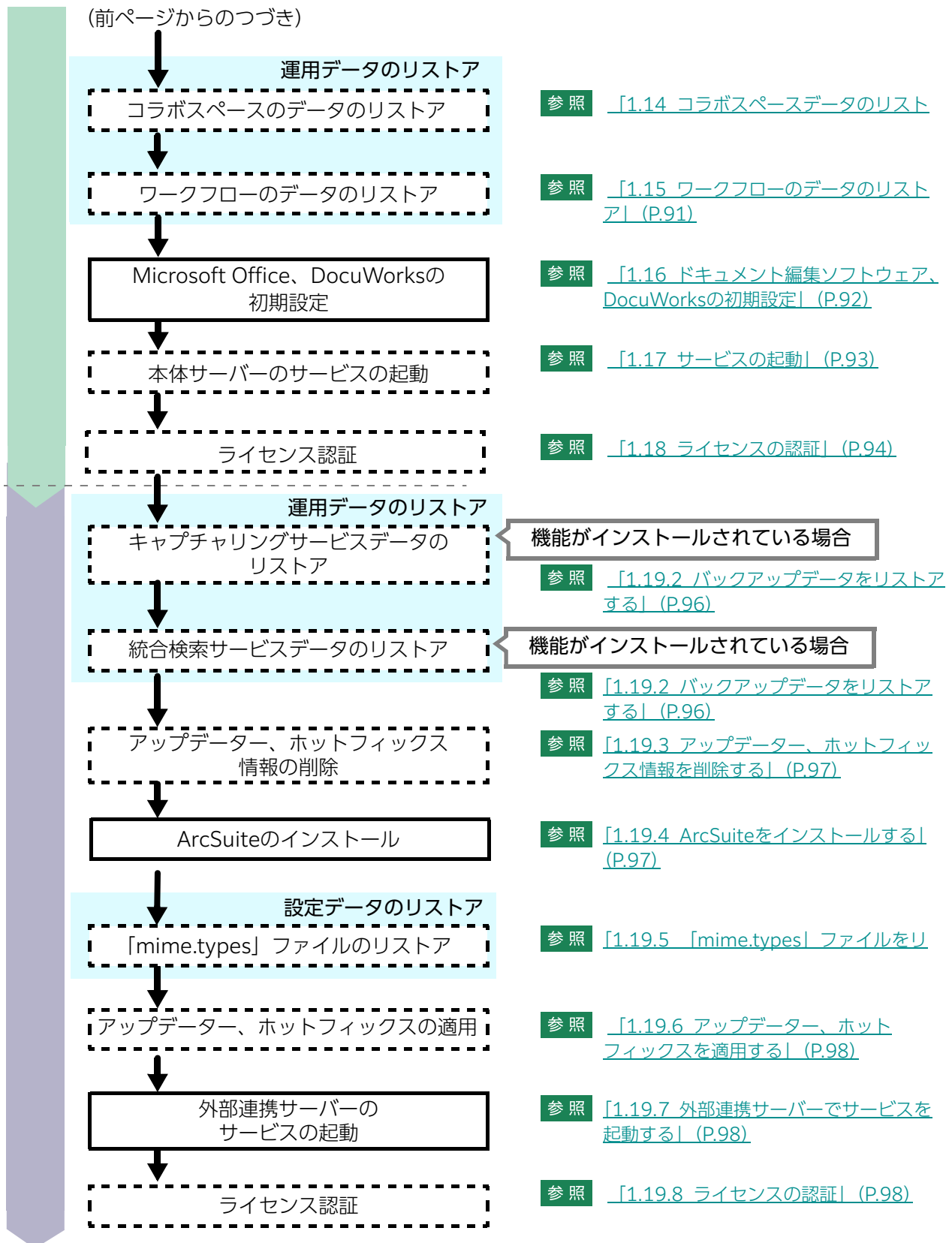
参照 [「1.9 データベースサービスの起動」 \(P.85\)](#)

参照 [「1.10 アップデーター、ホットフィックス情報の削除」 \(P.86\)](#)

参照 [「1.11 ArcSuiteのインストール」 \(P.87\)](#)

参照 [「1.12 \[mime.types\] ファイルのリストア」 \(P.88\)](#)

参照 [「1.13 アップデーター、ホットフィックスの適用」 \(P.89\)](#)



1.2 リストアするときに注意すること

バックアップデータをリストアするときには、次の点に注意してください。

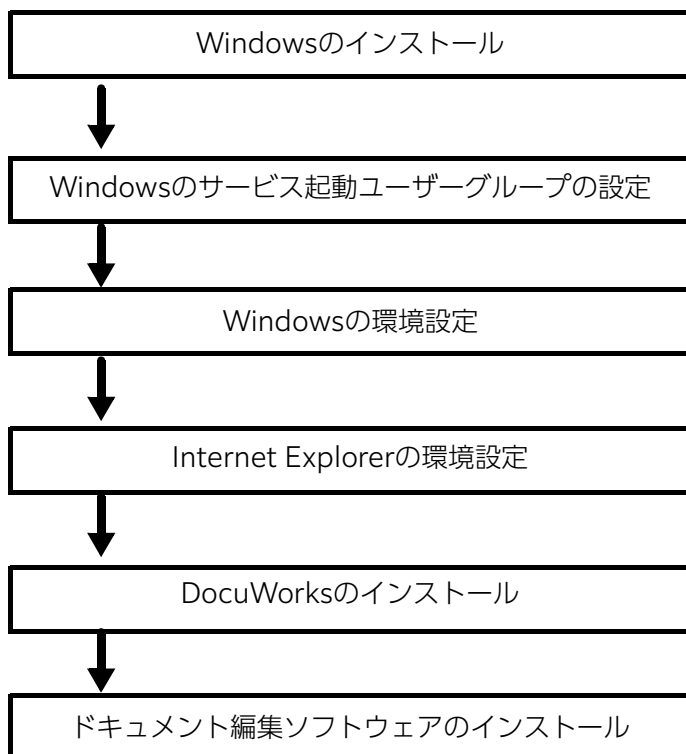
- ・バックアップしたデータのフォルダー階層とリストア先のフォルダー階層を同じにする

たとえば、「C:¥ArcSuite¥Service」のフォルダーをバックアップした場合は、リストアするときも「C:¥ArcSuite¥Service」の階層にする必要があります。リストア先の階層を、「D:¥ArcSuite¥Service」（ドライブをDに変更）にしたり、「C:¥Service」（フォルダーの階層を変更）にしたりすると、動作しません。

1.3 新規のサーバーで実施しておくこと

ArcSuiteをインストールするサーバーでは、次の作業を終了しておく必要があります。

サーバーとして使用するPCに、ArcSuiteがサポートしているWindows OSをインストールし、Windowsに関連する設定を実行します。OSを設定する手順の流れは、次のとおりです。



注記 Windows のサービス起動ユーザー、グループは、バックアップデータのサービス起動ユーザー、グループと、同じ内容を設定する必要があります。

参照

- ・ ArcSuite がサポートしている OS のインストール手順については、Windows 付属の説明書を参照してください。
- ・ OS をインストールしたあとに必要な設定は、『セットアップガイド』を参照してください。

1.4 データベースの設置

ArcSuiteのバックアップデータをリストする前に、データベースを設置します。

注 記 データベースをインストールするときに入力する項目は、データベースのリストアが完了すると、リストアしたデータの内容に上書きされます。

参 照 データベースの設置手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

1.5 データベースのサービスの停止

[\[第4部 リストア-新規のサーバーの場合\]](#) の [「1.4 データベースの設置」\(P.76\)](#) で設置したデータベースのサービスを停止します。

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
 - (1) OracleService {SID}
 - (2) OracleOraDB19Home1TNSListener

補足 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを認する」\(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

1.5.1 データベースサービスが停止していることを確認する

データベースサービスが停止していることを確認します。

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスが停止していることを確認します。
 - (1) [OracleService {SID}] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。
 - (2) [OracleOraDB19Home1TNSListener] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。

補足 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを認する」\(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

1.6 リストアの対象となるデータ

次のバックアップデータをリストアします。

レジストリーの設定データ

- ・ ArcSuite のレジストリーキー

データベースの設定データ

- ・ 「PWD {SID} .ora」 ファイル
- ・ 「listener.ora」 ファイル
- ・ 「tnsnames.ora」 ファイル
- ・ 「sqlnet.ora」 ファイル

ArcSuite の設定データ

- ・ 「mime.types」 ファイル
- ・ キャプチャリングサービスの「mime.types」 ファイル
- ・ 統合検索サービスの「mime.types」 ファイル

データベースの運用データ

- ・ 表領域のデータファイル
- ・ 一時表領域のデータファイル
- ・ 制御ファイル
- ・ REDO ファイル
- ・ サーバーパラメーターファイル
- ・ 「diag」 フォルダー
- ・ 「{ホスト名_SID}」 フォルダー
- ・ 「sysman」 フォルダー

ユーザーホームのデータ

- ・ 「Service」 フォルダー
- ・ 「DocumentGatheringAgent」 フォルダー
- ・ 「Capture」 フォルダー

補足 ・ 「Service」 フォルダーは、「{ArcSuite のユーザーホーム}」にあります。

- ・ 「DocumentGatheringAgent」 フォルダーは、統合検索サービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{統合検索サービスのユーザーホーム} %Client」 フォルダーにあります。
- ・ 「Capture」 フォルダーは、キャプチャリングサービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{キャプチャリングサービスのユーザーホーム} %Client」 フォルダーにあります。
- ・ {ArcSuite のユーザーホーム}、{統合検索サービスのユーザーホーム}、および {キャプチャリングサービスのユーザーホーム} のデフォルトは、「C:%ArcSuite」 です。

ドキュメント管理サービスのデータ

- ・ ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー
- ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー
- ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダー

コラボスペースのデータ

- ・ コラボスペースのインポートフォルダー
- ・ コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー

ワークフローのデータ

- ・ 外部コマンドの配置フォルダー

キャプチャリングサービスのデータ

- ・ キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー

1.7 Windows のサービス起動ユーザーの設定

サーバーとして使用するPCに、ArcSuiteの各コンポーネントを起動するためのユーザー（サービス起動ユーザー）とグループを登録します。サービス起動ユーザーとグループの設定は、ArcSuiteのインストール時でもできます。

ここでは、次のサービス起動ユーザーおよびグループを設定する例を説明します。

- ・ユーザー
ARCUSRSVC
- ・グループ
ARCGRPSVC

補足 サービス起動ユーザーには、ローカルユーザーまたは既存のドメインユーザーを指定することもできます。

Windowsのサービス起動ユーザーを設定するために、次の手順をします。

- ・ [ユーザー名とパスワードを設定する](#)
- ・ [グループを設定する](#)
- ・ [\[サービスとしてログオン\] の権利を設定する](#)

注記 サービス起動ユーザーを設定しないと、ドキュメント管理サービスのデータをリストアするときにエラーになります。サービス起動ユーザーは、必ず設定してください。

1.7.1 ユーザー名とパスワードを設定する

サービス起動ユーザーのユーザー名とパスワードを設定します。

1. サービス起動ユーザーを設定する PC に、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [コンピューターの管理] を選択します。
[コンピューターの管理] 画面が表示されます。
3. ツリーから、[システムツール] > [ローカル ユーザーとグループ] > [ユーザー] を選択します。
4. [操作] メニューから、[新しいユーザー] を選択します。
[新しいユーザー] 画面が表示されます。
5. [ユーザー名] に、登録するユーザー名を入力します。
ここでは、「ARCUSRSVC」と入力します。
6. [フルネーム] に登録するユーザーのフルネームを入力します。
ここでは、「ARCUSRSVC」と入力します。
7. [説明] にユーザーの説明を入力します。
ここでは、「ARCUSRSVC」と入力します。
8. [パスワード] に、登録するユーザーのパスワードを入力します。
ここでは、「ArcSuite001」と入力します。
入力した文字はすべて「*」で表示されます。
9. [パスワードの確認入力] に、[パスワード] に入力した文字列を入力します。
入力した文字はすべて「*」で表示されます。
10. [ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要] のチェックマークを外します。

11. [パスワードを無期限にする] にチェックマークを付けます。

12. [作成] をクリックします。

入力した内容でユーザーが作成されます。

13. [閉じる] をクリックします。

[新しいユーザー] 画面が閉じます。

1.7.2 グループを設定する

グループを設定します。

サービス起動ユーザーのファイルアクセス権限を一元管理するため、作成したサービス起動ユーザー（ここでは「ARCUSRSVC」です）を、サービス起動グループ（ここでは「ARCGRPSVC」です）に加えます。

1. [コンピュータの管理] 画面で、ツリーから [システムツール] > [ローカル ユーザーとグループ] > [グループ] を選択します。

ウィンドウ内の右側にグループの一覧が表示されます。

2. [操作] メニューから、[新しいグループ] を選択します。

[新しいグループ] 画面が表示されます。

3. [グループ名] に、グループの名前を入力します。

ここでは、「ARCGRPSVC」と入力します。

4. [追加] をクリックします。

[ユーザーまたはグループの選択] 画面が表示されます。

5. [詳細設定] をクリックします。

6. [共通クエリ] エリア右側の [今すぐ検索] をクリックします。

7. 一覧に表示されているユーザーの中から、該当するユーザーを選択します。

ここでは、「ARCUSRSVC」と入力します。

8. [追加] をクリックします。

画面下部に、選択したユーザーが表示されます。

9. [OK] をクリックします。

[ユーザーまたはグループの選択] 画面が閉じて、[新しいグループ] 画面に戻ります。

10. グループが追加されていることを確認して、[作成] をクリックします。

[新しいグループ] 画面が閉じます。

1.7.3 「サービスとしてログオン」の権利を設定する

「サービスとしてログオン」の権利を設定します。

作成したサービス起動ユーザー（ここでは「ARCUSRSVC」です）がサービスを起動できるように、「サービスとしてログオン」の権利をサービス起動ユーザーに設定します。

- 1.** Windows の [スタート] メニューから、[サーバーマネージャー] を選択します。
[サーバーマネージャー] 画面が表示されます。
- 2.** [ツール] をクリックし、表示されたメニューから [ローカルセキュリティポリシー] を選択します。
[ローカルセキュリティポリシー] 画面が表示されます。
- 3.** ツリーから、[ローカルポリシー] > [ユーザー権利の割り当て] を選択します。
ウィンドウ内の右側にポリシーの一覧が表示されます。
- 4.** 一覧として表示されたポリシーの中から、[サービスとしてログオン] をダブルクリックします。
[ローカルセキュリティポリシーの設定] 画面が表示されます。
- 5.** [ユーザーまたはグループの追加] をクリックします。
[ユーザーまたはグループの選択] 画面が表示されます。
- 6.** [詳細設定] をクリックします。
- 7.** [共通クエリ] エリア右側の [今すぐ検索] をクリックします。
- 8.** 一覧に表示されているユーザーの中から、該当するユーザーを選択します。ここでは、「ARCUSRSVC」を選択します。
- 9.** [OK] をクリックします。
画面下部に、選択したユーザーが表示されます。
- 10.** [OK] をクリックします。
[ユーザーまたはグループの選択] 画面が閉じて、[ローカルセキュリティポリシーの設定] 画面に戻ります。
- 11.** ユーザーが追加されていることを確認して、[OK] をクリックします。
[ローカルセキュリティポリシーの設定] 画面が閉じます。

1.8 バックアップデータのリストア

バックアップデータをリストアするには、はじめに本体サーバーのデータをリストアし、そのあと、外部連携サーバーのデータをリストアします。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[「第2部 オフラインバックアップ」](#)の[「1.6 バックアップするデータの確認」\(P.33\)](#)を参照してください。

1.8.1 本体サーバーにデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. バックアップデータをリストアします。

◆ データベースの運用データをリストアする

(1) データベース運用データのバックアップデータを、それぞれ決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ データベースの設定データをリストアする

(1) データベース設定データのバックアップデータを、それぞれ決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ レジストリーのデータをリストアする

(1) [「付録 B.2 レジストリーをリストアする」\(P.121\)](#)を参照して、レジストリーをリストアします。

◆ ユーザーホームのデータをリストアする

(1) 「Service」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ ドキュメント管理サービスデータをリストアする

(1) ドキュメント管理サービスのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーにリストア（コピー）します。

補足 ドキュメント管理サービスの次のデータをリストアします。

- ・ ドロワーのストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
- ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
- ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダーのデータすべて

3. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー}
```

補足 ・ 「{ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー}」が、「{ArcSuite のユーザーホーム} %Service%data%Repository」フォルダーの下階層にある場合は、手順 [6](#) に進みます。

・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「C:%ArcSuite」です。

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
caccls " {ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー} " /T /C /P Administrators:F  
{サービス起動ユーザー} :F
```

補足 {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

6. 手順 4 ～ 5 を繰り返して、同様に、リストアしたフォルダーでコマンドを実行します。
7. 手順 4 ～ 6 を繰り返して、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」 および「アーカイブ保存データの出力先フォルダー」 も同様にコマンドを実行します。

1.9 データベースサービスの起動

データベースのサービスを起動します。

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。
次の順序で起動します。

(1) OracleOraDB19Home1TNSListener

(2) OracleService {SID}

- 注 記**
- ・各サービスは、決められた順序で起動してください。
 - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
 - OracleVssWriter {SID}
 - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
 - OracleRemExecServiceV2
 - OracleJobScheduler {SID}

補 足 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」\(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

1.10 アップデーター、ホットフィックス情報の削除

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、アップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、その情報を削除する必要があります。

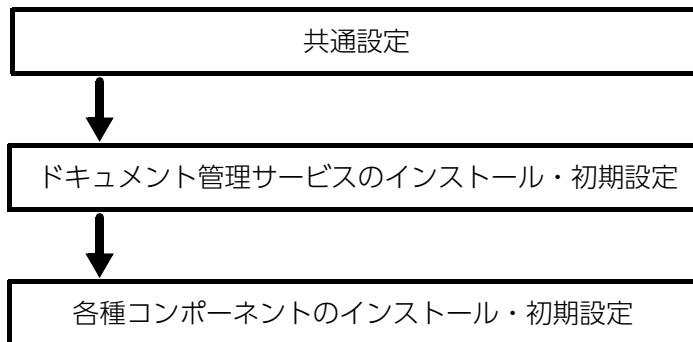
補足 バックアップデータを作成した環境に、アップデーター、ホットフィックスを適用していない場合は、この操作は不要です。

1.10.1 本体サーバーのアップデーター、ホットフィックス情報を削除する

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「ArcSuite 4.0 インストール」インストールメディアを、ドライブに挿入します。
3. 次のファイルをコピーします。
「{インストールメディア} ¥Service¥Tools¥Backup¥unpatch.zip」
4. コピーした zip ファイルを、サーバーに展開します。
5. 次のファイルがあることを確認します。
・「unpatch.reg」ファイル
6. 「unpatch.reg」ファイルをダブルクリックします。

1.11 ArcSuite のインストール

データベースを設置したあと、ArcSuiteを本体サーバーにインストールします。インストールする手順は次のとおりです。



- 注 記**
- ・インストールするときに、[サービス起動ユーザー情報] 画面および [サービス起動ユーザーのグループ情報] 画面には、バックアップしたサーバーにインストールするときに入力した値と同じ値を入力してください。
 - ・ハードウェアの故障などの理由で、旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除できない状態の場合に、ArcSuite を新規サーバーにインストールするときは、インストーラーのアクティベーション方法を選択する画面で、[あとで認証する。] を選択してください。

補 足 共通設定で設定する「サービス起動ユーザー情報」のユーザー名は、通常は「ARCUSRSVC」です。「サービス起動ユーザーのグループ情報」のユーザー名は「ARCGRPSVC」です。

参 照 設置の詳細な手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

1.12 「mime.types」 ファイルのリストア

バックアップしたデータに、ArcSuite の設定データの「mime.types」ファイルが含まれている場合は、そのファイルをリストアします。

リストアするデータ

次のデータを本体サーバーにリストアします。

- ・「{ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Java%jre%lib」にある「mime.types」ファイル

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

リストアする手順

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「{ArcSuite のプログラムホーム} %Service%Java%jre%lib」にある「mime.types」ファイルのバックアップを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、「C:%Program Files%FUJIFILM%ArcSuite」です。

1.13 アップデーター、ホットフィックスの適用

バックアップしたArcSuiteサーバーに、アップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、同じバージョンのアップデーターまたはホットフィックスを適用する必要があります。

また、必要に応じて、最新のアップデーター、ホットフィックスを適用します。

アップデーター、ホットフィックスは弊社の「ArcSuite購入ユーザー専用」ページまたは「ArcSuiteサポート契約ユーザー専用ページ」からダウンロードできます。

- 補 足**
- ・ ページを表示するには、ユーザー名とパスワードの入力が必要です。
 - ・ ダウンロードしたあとの操作は、付属の Readme.txt を参照してください。

1.14 コラボスペースデータのリストア

コラボスペースのバックアップデータをリストアします。

注記 データをリストアしてバックアップデータの時点まで戻り、運用を再開した場合は、バックアップを実行したあとの運用で発信された通知メールでの操作が、次のような状態になることがあります。

- ・通知メール内の URL をクリックしても、タスクが表示されない
- ・メール内容とは異なるタスクや、文書が表示される
- ・通知メールに返信すると、該当するタスク以外のタスクに返信メッセージが記述される

1.14.1 コラボスペースのデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. コラボスペースのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーにリストア（コピー）します。
3. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {コラボスペースのインポートフォルダー}
```

参照 {コラボスペースのインポートフォルダー} は、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「\[コラボスペースのインポートフォルダー\]を確認する」\(P.40\)](#) を参照して、確認してください。

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cacls " {コラボスペースのインポートフォルダー} " /T /C /P Administrators:F {サービス  
起動ユーザーのグループ} :R {サービス起動ユーザー} :F
```

補足 {サービス起動ユーザーのグループ} は、通常は「ARCGRPSVC」です。{サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

6. 手順 4 ～ 5 を繰り返して、「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」についても同様にコマンドを実行します。

参照 「コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー」は、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「\[コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー\]を確認する」\(P.40\)](#) を参照して、確認してください。

1.15 ワークフローのデータのリストア

バックアップしたデータから、ワークフローデータをリストアします。

1.15.1 リストアするデータ

次のデータをリストアします。

- ・ 外部コマンドの配置フォルダー

1.15.2 ワークフローデータをリストアする

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. ワークフローのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーにリストア（コピー）します。
3. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。
4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {外部コマンドの配置フォルダー}
```

- 補足** ・「外部コマンドの配置フォルダー」が、「{ArcSuite のユーザーホーム}」フォルダーの下階層にある場合は、手順 6 に進みます。
- ・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「{システムドライブ以外で最大容量のドライブ}:¥ArcSuite」です。

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cacls " {外部コマンドの配置フォルダー} " /T /C /P Administrators:F {サービス起動ユーザー} :F
```

- 補足** {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

6. 手順 4 ～ 5 を繰り返して、同様に、リストアしたフォルダーでコマンドを実行します。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[「第 2 部 オフラインバックアップ」](#)の[「「外部コマンドの配置フォルダー」を確認する」\(P.41\)](#)を参照してください。

1.16 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定

ArcSuiteを運用するのに必要なドキュメント編集ソフトウェア（Microsoft Officeのアプリケーションなど）、およびDocuWorksをインストールします。

補 足 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks は、あとでインストールすることも可能です。

- 参 照**
- ・ドキュメント編集ソフトウェアの詳細なインストール手順については、それぞれ該当する製品のマニュアルを参照してください。
 - ・DocuWorks のインストール手順については、DocuWorks のマニュアルを参照してください。

1.17 サービスの起動

ArcSuiteの本体サーバーのサービスを起動します。

1.17.1 本体サーバーでサービスを起動する

ArcSuiteの本体サーバーのサービスを起動します。

- 注記**
- ・各サービスは、決められた順序で起動してください。
 - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
 - OracleVssWriter {SID}
 - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
 - OracleRemExecServiceV2
 - OracleJobScheduler {SID}

補足 使用している環境によって、表示されないサービスがあります。その場合は、次に記載されているサービスを開始します。

1. ArcSuite がインストールされている本体サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
 - (1) OracleOraDB19Home1TNSListener
 - (2) OracleService {SID}
 - (3) DocuWorks Print Service
 - (4) Fx Doc Cnv Helper
 - (5) ArcSuite Basic Service
 - (6) ArcSuite Full Text Search Service
 - (7) ArcSuite kSearchDuo Service
 - (8) ArcSuite Repository Master Admin Service
 - (9) ArcSuite Repository Service
 - (10) ArcSuite Collabo Service
 - (11) ArcSuite Web Application Service
 - (12) ArcSuite Monitoring Service
 - (13) World Wide Web Publishing Service

参照 {SID} については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」 \(P.29\)](#) を参照してください。

1.18 ライセンスの認証

旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除して、そのライセンスを新規サーバーで利用できるようにします。ハードウェアの故障などの理由で、旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除できない状態の場合は、『ライセンス認証ガイド』を参照してライセンス認証を解除してください。そのあと、新規サーバーでライセンス認証を実行してください。

1.19 外部連携サーバーでの操作

外部連携サーバーでは、次の操作をします。

- ・ [バックアップデータをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックス情報を削除する](#)
- ・ [ArcSuite をインストールする](#)
- ・ [「mime.types」 ファイルをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックスを適用する](#)
- ・ [外部連携サーバーでサービスを起動する](#)
- ・ [ライセンスの認証](#)

補足 アップデーター、ホットフィックス情報の削除と適用、および「mime.types」ファイルのリストアは、必要に応じて実行します。

1.19.1 リストア対象となるデータ

外部連携サーバーには、次のバックアップデータをリストアします。

レジストリーのデータ

- ・ ArcSuite のレジストリーキー

ArcSuite の設定データ

- ・ キャプチャリングサービスの「mime.types」ファイル
- ・ 統合検索サービスの「mime.types」ファイル

ユーザーホームのデータ

- ・ 「DocumentGatheringAgent」フォルダー
- ・ 「Capture」フォルダー

補足

- ・ 「DocumentGatheringAgent」フォルダーは、統合検索サービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{統合検索サービスのユーザーホーム} ¥Client」フォルダーにあります。
- ・ 「Capture」フォルダーは、キャプチャリングサービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{キャプチャリングサービスのユーザーホーム} ¥Client」フォルダーにあります。
- ・ {統合検索サービスのユーザーホーム}、および {キャプチャリングサービスのユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」です。

キャプチャリングサービスのデータ

- ・ キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー

1.19.2 バックアップデータをリストアする

外部連携サーバーに、バックアップデータをリストアします。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.6 バックアップするデータの確認」\(P.33\)](#) を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. バックアップデータをリストアします。

◆ レジストリーのデータをリストアする

(1) [\[付録 B.2 レジストリーをリストアする\] \(P.121\)](#) を参照して、レジストリーをリストアします。

補足 統合検索サービスがインストールされている場合は、このあと、手順 [2](#) に進みます。

(2) 「ArcSuite 4.0 インストール」 インストールメディアを、ドライブに挿入します。

(3) 次のファイルをコピーします。

「{インストールメディア} ¥Client¥Tools¥Backup¥reset_vdr.zip」

(4) コピーした zip ファイルを、サーバーに展開します。

(5) 次のファイルがあることを確認します。

「reset_vdr.reg」 ファイル

(6) 「reset_vdr.reg」 ファイルを選択して、ダブルクリックします。

◆ キャプチャリングサービスのデータをリストアする

(1) 監視キューのフォルダーがすでに存在する場合は、削除します。

補足 監視キューのフォルダーが存在しない場合は、手順 [2](#) に進みます。

(2) キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

(3) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

(4) 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー}
```

(5) 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
caccls " {キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー} " /T /C /P
Administrators:F {サービス起動ユーザー} :F
{監視キューに指定したフォルダーのアクセスユーザー} :C
```

補足 ・ {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

・ 「{サービス起動ユーザー} : F」 は必ず指定します。

・ 「{監視キューに指定したフォルダーのアクセスユーザー} : C」 は、ArcSuite 以外のアプリケーションで、「キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー」にキューイングの処理をするときに指定します。{監視キューに指定したフォルダーのアクセスユーザー} は、アプリケーションの実行ユーザーを指定します。

(6) 「Capture」 フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ 統合検索サービスのデータをリストアする

(1) 「DocumentGatheringAgent」 フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

1.19.3 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、キャプチャリングサービス、統合検索サービスのアップデーター、ホットフィックスが含まれていた場合には、その情報を削除する必要があります。

補足 バックアップデータを作成した環境に、アップデーター、ホットフィックスを適用していない場合は、この操作は不要です。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「ArcSuite 4.0 インストール」 インストールメディアを、ドライブに挿入します。
3. 次のファイルをコピーします。
「{インストールメディア} ¥Service¥Tools¥Backup¥unpatch.zip」
4. コピーした zip ファイルを、サーバーに展開します。
5. 次のファイルがあることを確認します。
 - ・「unpatch_capture.reg」 ファイル
 - ・「unpatch_vdr.reg」 ファイル
6. 「unpatch_capture.reg」 ファイルをダブルクリックします。
7. 「unpatch_vdr.reg」 ファイルをダブルクリックします。

1.19.4 ArcSuite をインストールする

ArcSuiteのキャプチャリングサービス、統合検索サービスをインストールします。

参照 設置の詳細な手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

1.19.5 「mime.types」 ファイルをリストアする

バックアップしたデータに、ArcSuiteの設定データの「mime.types」 ファイルが含まれている場合は、そのファイルをリストアします。

リストアするデータ

次のデータを外部連携サーバーにリストアします。

- ・「{ArcSuite のプログラムホーム} ¥Client¥DocumentGatheringAgent¥Java¥jre¥lib」にある「mime.types」 ファイル
- ・「{ArcSuite のプログラムホーム} ¥Client¥Capture¥Java¥jre¥lib」にある「mime.types」 ファイル

補足 {ArcSuite のプログラムホーム} のデフォルトは、
「C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ArcSuite」です。

リストアする手順

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. 「mime.types」 ファイルをリストアします。
 - (1) 「{ArcSuite のプログラムホーム} \Client\DocumentGatheringAgent\Java\jre\lib」にある「mime.types」ファイルのバックアップを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。
 - (2) 「{ArcSuite のプログラムホーム} \Client\Capture\Java\jre\lib」にある「mime.types」ファイルのバックアップを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

1.19.6 アップデーター、ホットフィックスを適用する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、キャプチャリングサービス、統合検索サービスのアップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、同じバージョンのアップデーターまたはホットフィックスを適用します。

参照 操作方法は、[\[第4部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の「[1.13 アップデーター、ホットフィックスの適用](#)」(P.89) を参照してください。

1.19.7 外部連携サーバーでサービスを起動する

外部連携サーバーのサービスを起動します。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。次の順序で起動します。
 - (1) ArcSuite Capturing Service
 - (2) ArcSuite Capturing Service Admin
 - (3) ArcSuite DocumentGatheringAgent Register
 - (4) ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin
 - (5) ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy

1.19.8 ライセンスの認証

旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除して、そのライセンスを新規サーバーで利用できるようにします。

ハードウェアの故障などの理由で、旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除できない状態の場合は、『ライセンス認証ガイド』を参照してライセンス認証を解除してください。そのあと、新規サーバーでライセンス認証を実行してください。

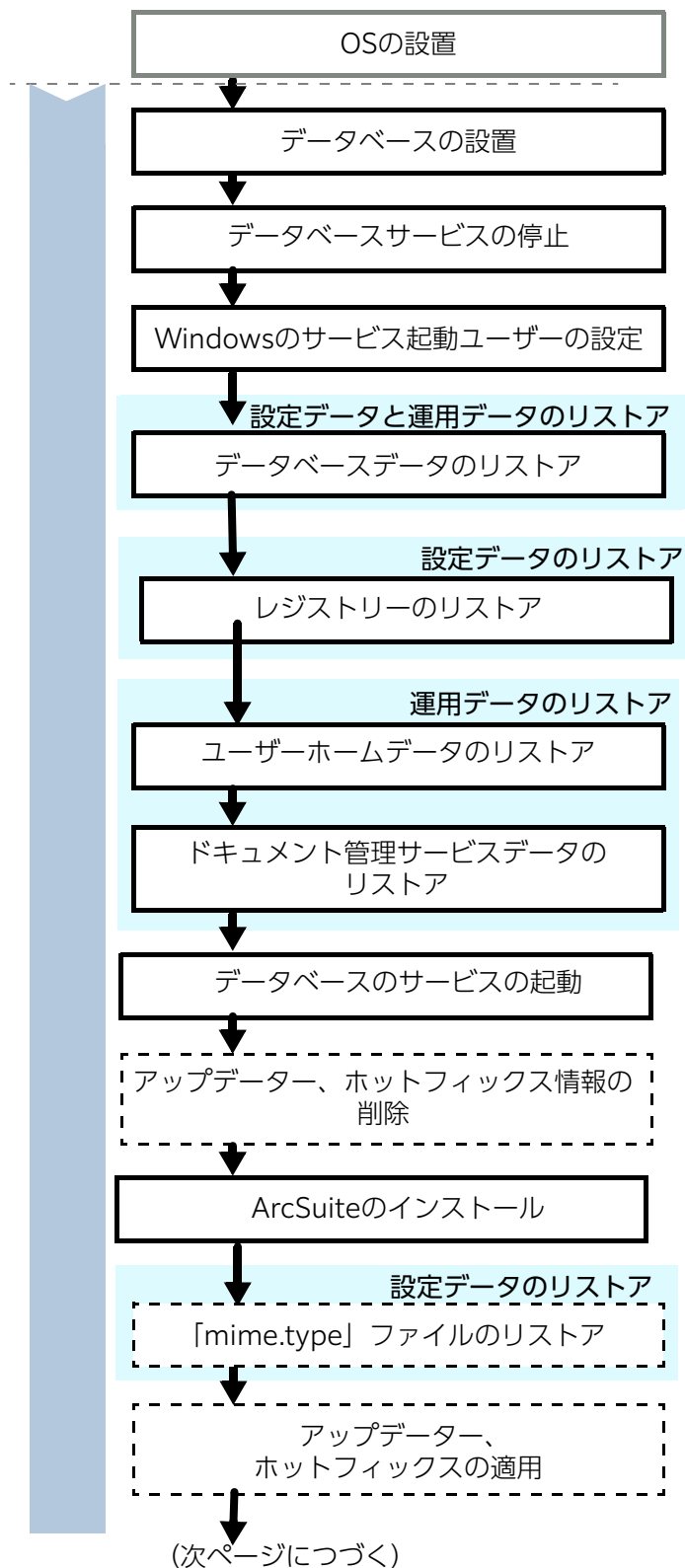


2 2台構成のサーバーの場合

システム構成が2台構成で、新規のサーバーにバックアップデータをリストアするときの操作を説明します。

2.1 リストア作業の流れ

- : コンポーネントサーバーの操作
- : リポジトリサーバーの操作
- : 外部連携サーバーの操作



参照 [「2.3 新規のサーバーで実施しておくこと」 \(P.104\)](#)

参照 [「2.4.2 データベースを設置する」 \(P.106\)](#)

参照 [「2.4.3 データベースサービスの停止」 \(P.106\)](#)

参照 [「2.4.5 Windowsのサービス起動ユーザーを設定する」 \(P.107\)](#)

参照 [「2.4.6 バックアップデータをリストアする」 \(P.109\)](#)

参照 [「2.4.6 バックアップデータをリストアする」 \(P.109\)](#)

参照 [「2.4.6 バックアップデータをリストアする」 \(P.109\)](#)

参照 [「2.4.6 バックアップデータをリストアする」 \(P.109\)](#)

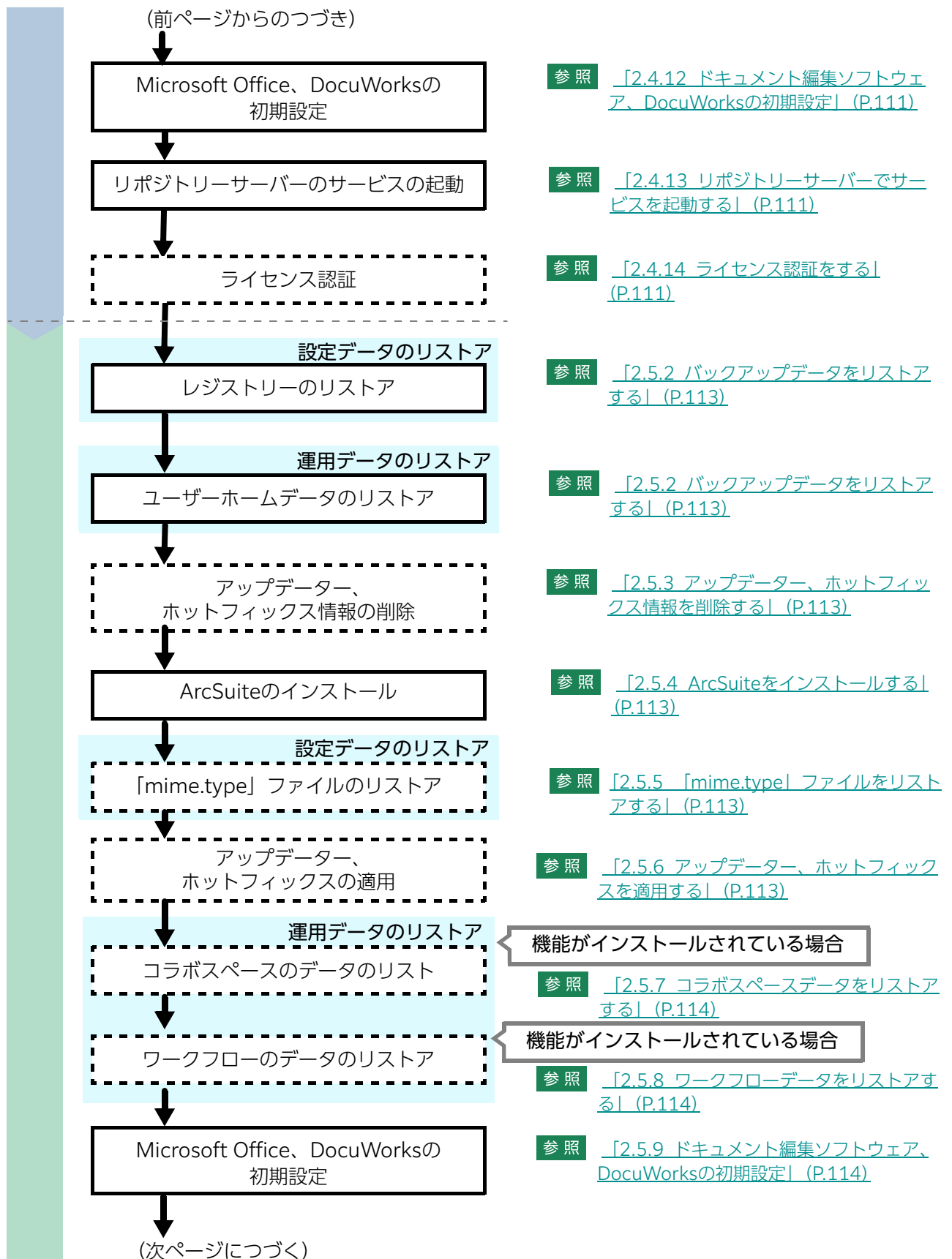
参照 [「2.4.7 データベースサービスの起動」 \(P.110\)](#)

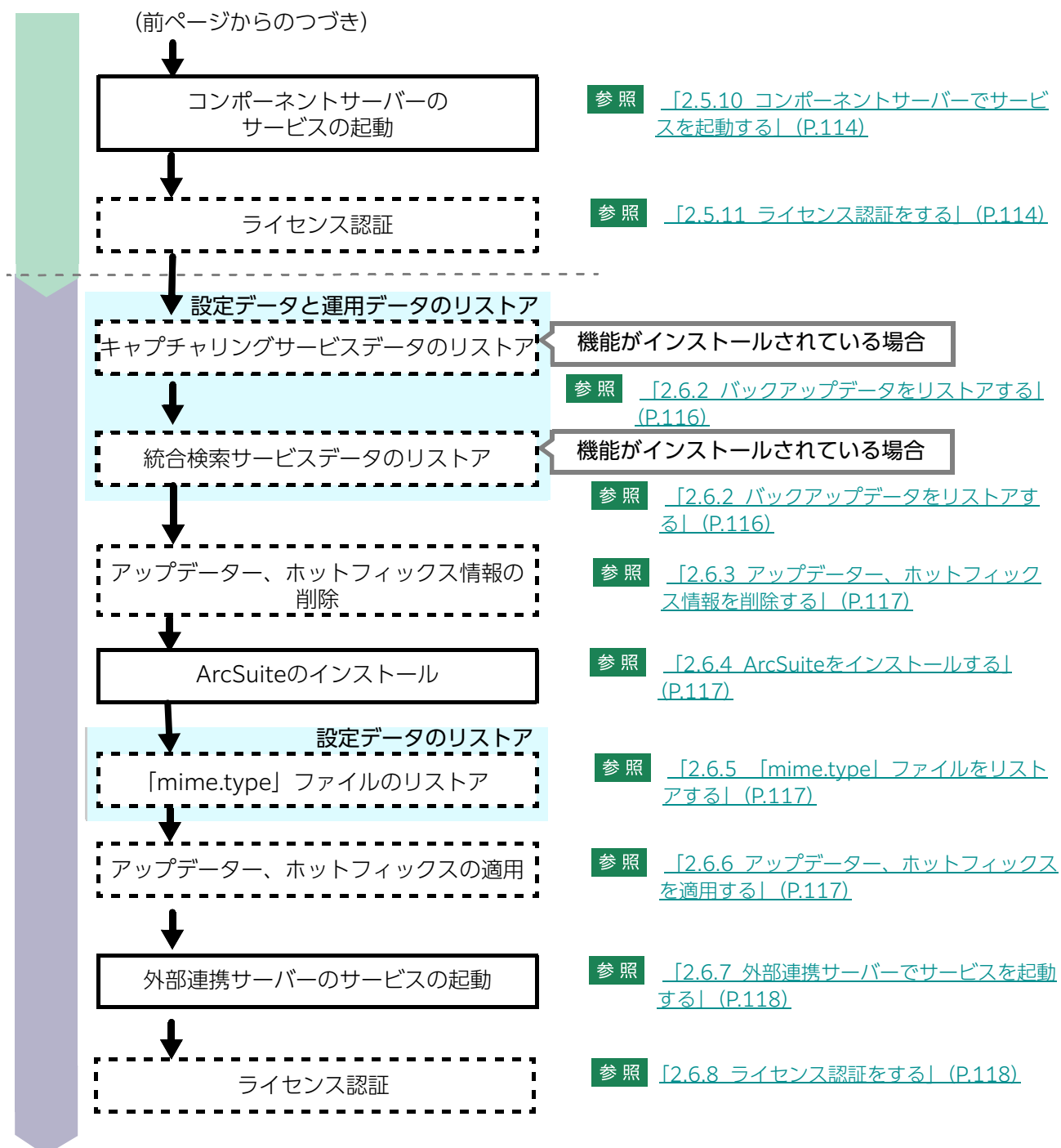
参照 [「2.4.8 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する」 \(P.110\)](#)

参照 [「2.4.9 ArcSuiteをインストールする」 \(P.111\)](#)

参照 [「2.4.10 「mime.type」 ファイルをリストアする」 \(P.111\)](#)

参照 [「2.4.11 アップデーター、ホットフィックスを適用する」 \(P.111\)](#)





2.2 リストアするときに注意すること

バックアップデータをリストアするときには、次の点に注意してください。

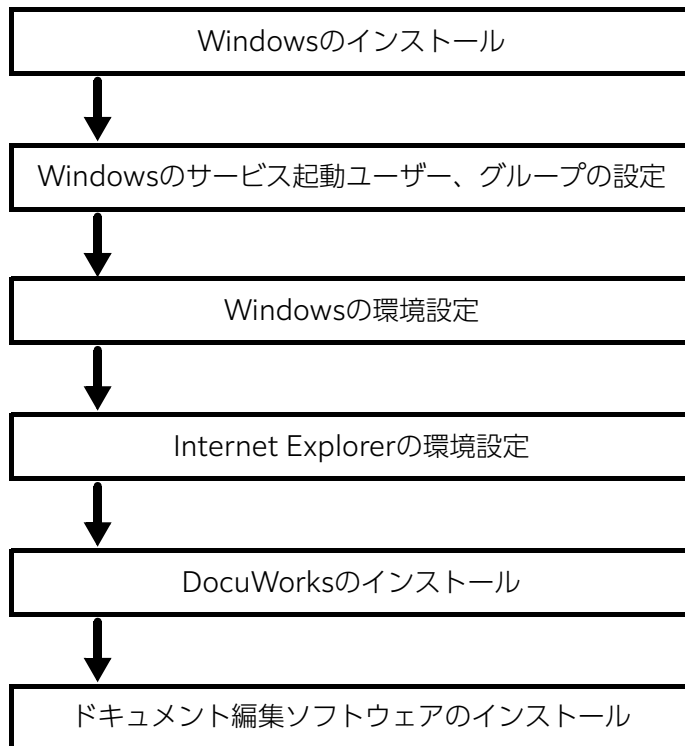
- ・ バックアップしたデータのフォルダー階層とリストア先のフォルダー階層を同じにする

たとえば、「C:¥ArcSuite¥Service」のフォルダーをバックアップした場合は、リストアするときも「C:¥ArcSuite¥Service」の階層にする必要があります。リストア先の階層を、「D:¥ArcSuite¥Service」（ドライブをDに変更）にしたり、「C:¥Service」（フォルダーの階層を変更）したりすると、動作しません。

2.3 新規のサーバーで実施しておくこと

ArcSuiteをインストールするサーバーでは、次の作業を終了しておく必要があります。

サーバーとして使用するPCに、サポートしているWindows OSをインストールし、Windowsに関連する設定を実行します。



注記 Windows のサービス起動ユーザー、グループは、バックアップデータのサービス起動ユーザー、グループと、同じに設定する必要があります。

参照

- ・ サポートしている OS のインストール手順については、Windows 付属の説明書を参照してください。
- ・ OS をインストールしたあとに必要な設定は、『セットアップガイド』を参照してください。

2.4 リポジトリサーバーでの操作

リポジトリサーバーでは、次の操作をします。

- ・ [データベースを設置する](#)
- ・ [データベースサービスの停止](#)
- ・ [データベースサービスが停止していることを確認する](#)
- ・ [Windows のサービス起動ユーザーを設定する](#)
- ・ [バックアップデータをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックス情報を削除する](#)
- ・ [ArcSuite をインストールする](#)
- ・ [\[mime.type\] ファイルをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックスを適用する](#)
- ・ [ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定](#)
- ・ [リポジトリサーバーでサービスを起動する](#)
- ・ [ライセンス認証をする](#)

補足 アップデーター、ホットフィックス情報の削除と適用、および「mime.type」ファイルのリストアは、必要に応じて実行します。

2.4.1 リストアの対象となるデータ

リポジトリサーバーには、次のバックアップデータをリストアします。

- ◆ レジストリーのデータ
 - ・ ArcSuite のレジストリーキー
- ◆ データベースの設定データ
 - ・ 「PWD {SID} .ora」 ファイル
 - ・ 「listener.ora」 ファイル
 - ・ 「tnsnames.ora」 ファイル
 - ・ 「sqlnet.ora」 ファイル
- ◆ ArcSuite の設定データ
 - ・ 「mime.type」 ファイル
- ◆ データベースの運用データ
 - ・ 表領域のデータファイル
 - ・ 一時表領域のデータファイル
 - ・ 制御ファイル
 - ・ REDO ファイル
 - ・ サーバーパラメーターファイル
 - ・ 「diag」 フォルダー
 - ・ 「{ホスト名 _SID}」 フォルダー
 - ・ 「sysman」 フォルダー

◆ ユーザーホームのデータ

- ・ [Service] フォルダ

補足 ・ [Service] フォルダは、「{ArcSuite のユーザーホーム}」にあります。
・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」です。

◆ ドキュメント管理サービスのデータ

- ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダ
- ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダ
- ・ キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダ

2.4.2 データベースを設置する

バックアップデータをリストする前に、データベースを設置します。

注記 データベースをインストールするときに入力する項目は、データベースのリストアが完了すると、リストアしたデータの内容に上書きされます。

参照 データベースの設置手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

2.4.3 データベースサービスの停止

データベースのサービスを停止します。

1. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの停止] をクリックします。次の順序で停止します。
(1) OracleService {SID}
(2) OracleOraDB19Home1TNSListener

補足 {SID} については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」 \(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

2.4.4 データベースサービスが停止していることを確認する

データベースサービスが停止していることを確認します。

1. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスが停止していることを確認します。
(1) [OracleService {SID}] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。
(2) [OracleOraDB19Home1TNSListener] を選択して、[状態] の欄が空欄になっていることを確認します。

補足 {SID} については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確認する」 \(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

2.4.5 Windows のサービス起動ユーザーを設定する

リポジトリサーバーに、コンポーネントを起動するためのユーザー（サービス起動ユーザー）とグループを登録します。バックアップしたときと同じサービス起動ユーザーとグループを作成します。サービス起動ユーザーとグループの設定は、ArcSuiteをインストールする時でもできます。

ここでは、次のサービス起動ユーザーおよびグループを設定する例を説明します。

- ・ ユーザー
ARCUSRSVC
- ・ グループ
ARCGRPSVC

補足 サービス起動ユーザーには、ローカルユーザーまたは既存のドメインユーザーを指定することもできます。

Windowsのサービス起動ユーザーを設定するために、次の手順をします。

- ・ [ユーザー名とパスワードの設定](#)
- ・ [グループの設定](#)
- ・ [\[サービスとしてログオン\] の権利の設定](#)

注記 サービス起動ユーザーを設定しないと、ドキュメント管理サービスのデータをリストアするときにエラーになります。サービス起動ユーザーは、必ず設定してください。

ユーザー名とパスワードの設定

サービス起動ユーザーのユーザー名とパスワードを設定します。

1. サービス起動ユーザーを設定する PC に、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [コンピューターの管理] を選択します。
[コンピューターの管理] 画面が表示されます。
3. ツリーから、[システムツール] > [ローカル ユーザーとグループ] > [ユーザー] を選択します。
4. [操作] メニューから、[新しいユーザー] を選択します。
[新しいユーザー] 画面が表示されます。
5. [ユーザー名] に、登録するユーザー名を入力します。ここでは、「ARCUSRSVC」と入力します。
6. [フルネーム] に登録するユーザーのフルネームを入力します。ここでは、「ARCUSRSVC」と入力します。
7. [説明] にユーザーの説明を入力します。ここでは、「ARCUSRSVC」と入力します。
8. [パスワード] に、登録するユーザーのパスワードを入力します。ここでは、「ArcSuite-2015」と入力します。
入力した文字はすべて「*」で表示されます。
9. [パスワードの確認入力] に、[パスワード] に入力した文字列を入力します。
入力した文字はすべて「*」で表示されます。
10. [ユーザーは次回ログオン時にパスワードの変更が必要] のチェックマークを外します。
11. [パスワードを無期限にする] にチェックマークを付けます。
12. [作成] をクリックします。
入力した内容でユーザーが作成されます。

13. [閉じる] をクリックします。
[新しいユーザー] 画面が閉じます。

グループの設定

グループを設定します。

サービス起動ユーザーのファイルアクセス権限を一元管理するため、作成したサービス起動ユーザー（ここでは「ARCUSRSVC」です）を、サービス起動グループ（ここでは「ARCGRPSVC」です）に加えます。

1. [コンピュータの管理] 画面で、ツリーから [システムツール] > [ローカル ユーザーとグループ] > [グループ] を選択します。
ウィンドウ内の右側にグループの一覧が表示されます。
2. [操作] メニューから、[新しいグループ] を選択します。
[新しいグループ] 画面が表示されます。
3. [グループ名] に、グループの名前を入力します。ここでは、「ARCGRPSVC」と入力します。
4. [追加] をクリックします。
[ユーザーまたはグループの選択] 画面が表示されます。
5. [詳細設定] をクリックします。
6. [共通クエリ] エリア右側の [今すぐ検索] をクリックします。
7. 一覧に表示されているユーザーの中から、該当するユーザーを選択します。ここでは、「ARCUSRSVC」を選択します。
8. [追加] をクリックします。
画面下部に、選択したユーザーが表示されます。
9. [OK] をクリックします。
[ユーザーまたはグループの選択] 画面が閉じて、[新しいグループ] 画面に戻ります。
10. グループが追加されていることを確認して、[作成] をクリックします。
[新しいグループ] 画面が閉じます。

「サービスとしてログオン」の権利の設定

「サービスとしてログオン」の権利を設定します。

作成したサービス起動ユーザー（ここでは「ARCUSRSVC」です）がサービスを起動できるように、「サービスとしてログオン」の権利をサービス起動ユーザーに設定します。

1. Windows のスタート画面で、[サーバーマネージャー] をクリックします。
[サーバーマネージャー] 画面が表示されます。
2. Windows の [スタート] メニューから、[サーバーマネージャー] を選択します。
[サーバーマネージャー] 画面が表示されます。
3. [ツール] をクリックし、表示されたメニューから [ローカルセキュリティポリシー] を選択します。
[ローカルセキュリティポリシー] 画面が表示されます。
4. ツリーから、[ローカルポリシー] > [ユーザー権利の割り当て] を選択します。
ウィンドウ内の右側にポリシーの一覧が表示されます。
5. 一覧として表示されたポリシーの中から、[サービスとしてログオン] をダブルクリックします。
[ローカルセキュリティポリシーの設定] 画面が表示されます。

6. [ユーザーまたはグループの追加] をクリックします。
[ユーザーまたはグループの選択] 画面が表示されます。
7. [詳細設定] をクリックします。
8. [共通クエリ] エリア右側の [今すぐ検索] をクリックします。
9. 一覧に表示されているユーザーの中から、該当するユーザーを選択します。ここでは、「ARCUSRSVC」を選択します。
10. [OK] をクリックします。
画面下部に、選択したユーザーが表示されます。
11. [OK] をクリックします。
[ユーザーまたはグループの選択] 画面が閉じて、[ローカルセキュリティポリシーの設定] 画面に戻ります。
12. ユーザーが追加されていることを確認して、[OK] をクリックします。
[ローカルセキュリティポリシーの設定] 画面が閉じます。

2.4.6 バックアップデータをリストアする

バックアップデータをリストアします。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.6 バックアップするデータの確認」\(P.33\)](#) を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. バックアップデータをリストアします。

◆ レジストリーのデータをリストアする

- (1) [\[付録 B.2 レジストリーをリストアする」\(P.121\)\]](#) を参照して、レジストリーをリストアします。

◆ データベースの運用データをリストアする

- (1) データベース運用データのバックアップデータを、それぞれ決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ データベースの設定データをリストアする

- (1) データベース設定データのバックアップデータを、それぞれ決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ ユーザーホームのデータをリストアする

- (1) 「Service」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ ドキュメント管理サービスデータをリストアする

- (1) ドキュメント管理サービスのバックアップデータを、バックアップデータと同じ階層のフォルダーにリストア（コピー）します。

補足 ドキュメント管理サービスの次のデータをリストアします。

- ・ ドロワーのストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
- ・ ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダーのデータすべて
- ・ アーカイブ保存データの出力先フォルダーのデータすべて

- (2) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

(3) 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {ドローワーのストレージパスに指定したフォルダー}
```

- 補足**
- ・「ドローワーのストレージパスに指定したフォルダー」が、「{ArcSuite のユーザーホーム} %Service\data% Repository」フォルダーの下階層にある場合は、手順 5 に進みます。
 - ・{ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「C:%ArcSuite」です。

(4) 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
caccls " {ドローワーのストレージパスに指定したフォルダー} " /T /C /P Administrators:F  
{サービス起動ユーザー} :F
```

- 補足** {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。

(5) 手順 3 ～ 4 を繰り返して、同様に、リストアしたフォルダーでコマンドを実行します。

(6) 手順 3 ～ 5 を繰り返して、「ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー」および「アーカイブ保存データの出力先フォルダー」も同様にコマンドを実行します。

2.4.7 データベースサービスの起動

データベースのサービスを起動します。

1. ArcSuite がインストールされているリポジトリサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows 管理ツール] > [サービス] を選択します。
[サービス] 画面が表示されます。
3. サービスを選択して、[サービスの開始] をクリックします。
次の順序で起動します。

(1) OracleOraDB19Home1TNSListener

(2) OracleService {SID}

- 注記**
- ・各サービスは、決められた順序で起動してください。
 - ・次のサービスは、手動で起動しないでください。
 - OracleVssWriter {SID}
 - OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService
 - OracleRemExecServiceV2
 - OracleJobScheduler {SID}

- 補足** {SID} については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.4.1 ArcSuite に関連するサービスを確
認する」 \(P.29\)](#) で説明しています。参照してください。

2.4.8 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、アップデーター、ホットフィックスが含まれていた場合には、その情報を削除する必要があります。

- 補足** バックアップデータを作成した環境に、アップデーター、ホットフィックスを適用していない場合は、この操作は不要です。

- 参照** 操作方法は、[\[第 4 部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#) の [「1.10.1 本体サーバーのアップデーター、ホッ
トフィックス情報を削除する」 \(P.86\)](#) を参照してください。

2.4.9 ArcSuite をインストールする

ArcSuiteをインストールします。

参照 設置の詳細な手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

2.4.10 「mime.type」 ファイルをリストアする

バックアップしたデータに、ArcSuite の設定データの「mime.type」ファイルが含まれている場合は、そのファイルをリストアします。

参照 操作方法は、[「第4部 リストア - 新規のサーバーの場合」の「1.12 「mime.types」ファイルのリストア」\(P.88\)](#)を参照してください。

2.4.11 アップデーター、ホットフィックスを適用する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、アップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、同じバージョンのアップデーターまたはホットフィックスを適用します。

参照 操作方法は、[「第4部 リストア - 新規のサーバーの場合」の「1.13 アップデーター、ホットフィックスの適用」\(P.89\)](#)を参照してください。

2.4.12 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定

ArcSuiteを運用するのに必要なドキュメント編集ソフトウェア（Microsoft Officeのアプリケーションなど）、およびDocuWorksをインストールします。

補足 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks は、あとでインストールすることも可能です。

参照

- ・ドキュメント編集ソフトウェアの詳細なインストール手順については、それぞれ該当する製品のマニュアルを参照してください。
- ・DocuWorks のインストール手順については、DocuWorks のマニュアルを参照してください。

2.4.13 リポジトリサーバーでサービスを起動する

リポジトリサーバーのサービスを起動します。

参照 サービスを起動する方法は、[「第3部 リストア - 既存のサーバーの場合」の「2.3.4 サービスを起動する」\(P.66\)](#)を参照してください。

2.4.14 ライセンス認証をする

旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除して、そのライセンスを新規サーバーで利用できるようにします。

ハードウェアの故障などの理由で、旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除できない状態の場合は、『ライセンス認証ガイド』を参照してライセンス認証を解除してください。そのあと、新規サーバーでライセンス認証を実行してください。

2.5 コンポーネントサーバーでの操作

コンポーネントサーバーでは、次の操作をします。

- ・ [バックアップデータをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックス情報を削除する](#)
- ・ [ArcSuite をインストールする](#)
- ・ [「mime.type」 ファイルをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックスを適用する](#)
- ・ [コラボスペースデータをリストアする](#)
- ・ [ワークフローデータをリストアする](#)
- ・ [ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定](#)
- ・ [コンポーネントサーバーでサービスを起動する](#)
- ・ [ライセンス認証をする](#)

補足 アップデーター、ホットフィックス情報の削除と適用、「mime.type」ファイルのリストアは必要に応じて実行します。

2.5.1 リストアの対象となるデータ

コンポーネントサーバーには、次のバックアップデータをリストアします。

◆ レジストリーのデータ

- ・ ArcSuite のレジストリーキー

◆ ArcSuite の設定データ

- ・ 「mime.type」 ファイル

◆ ユーザーホームのデータ

- ・ 「Service」 フォルダー

補足 ・ 「Service」 フォルダーは、「{ArcSuite のユーザーホーム}」にあります。
・ {ArcSuite のユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」です。

◆ コラボスペースのデータ

- ・ コラボスペースのインポートフォルダーに指定したフォルダー
- ・ コラボスペースのタスクのアーカイブデータの出力先に指定したフォルダー

◆ ワークフローのデータ

- ・ 外部コマンドの配置フォルダー

2.5.2 バックアップデータをリストアする

バックアップデータをリストアします。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[\[第2部 オフラインバックアップ\]](#)の[「1.6 バックアップするデータの確認」\(P.33\)](#)を参照してください。

1. ArcSuite のコンポーネントサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. バックアップデータをリストアします。

◆ レジストリーのデータをリストアする

(1) [\[付録 B.2 レジストリーをリストアする\] \(P.121\)](#) を参照して、レジストリーをリストアします。

◆ ユーザーホームのデータをリストアする

(1) 「Service」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

補足 コラボスペースとワークフローのデータは、ここではまだリストアしません。ArcSuite をインストールしたあと、リストアします。

2.5.3 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、アップデーター、ホットフィックスが含まれていた場合には、その情報を削除する必要があります。

補足 バックアップデータを作成した環境に、アップデーター、ホットフィックスを適用していない場合は、この操作は不要です。

参照 操作方法は、[\[第4部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の[「1.10.1 本体サーバーのアップデーター、ホットフィックス情報を削除する」\(P.86\)](#)を参照してください。

2.5.4 ArcSuite をインストールする

ArcSuiteをインストールします。

参照 設置の詳細な手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

2.5.5 「mime.type」ファイルをリストアする

バックアップしたデータに、ArcSuiteの設定データの「mime.type」ファイルが含まれている場合は、そのファイルをリストアします。

参照 操作方法は、[\[第4部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の[「1.12 「mime.types」ファイルのリストア」\(P.88\)](#)を参照してください。

2.5.6 アップデーター、ホットフィックスを適用する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、アップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、同じバージョンのアップデーターまたはホットフィックスを適用します。

参照 操作方法は、[\[第4部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の[「1.13 アップデーター、ホットフィックスの適用」\(P.89\)](#)を参照してください。

2.5.7 コラボスペースデータをリストアする

バックアップデータをリストアします。
この操作は、必要に応じて実行します。

参照 操作方法は、[\[第 4 部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の「[1.14 コラボスペースデータのリストア](#)」([P.90](#))を参照してください。

2.5.8 ワークフローデータをリストアする

バックアップデータをリストアします。
この操作は、必要に応じて実行します。

参照 操作方法は、[\[第 4 部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の「[1.15 ワークフローのデータのリストア](#)」([P.91](#))を参照してください。

2.5.9 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks の初期設定

ArcSuiteを運用するのに必要なドキュメント編集ソフトウェア（Microsoft Officeのアプリケーションなど）、およびDocuWorksをインストールします。

補足 ドキュメント編集ソフトウェア、DocuWorks は、あとでインストールすることも可能です。

参照 ・ドキュメント編集ソフトウェアの詳細なインストール手順については、それぞれ該当する製品のマニュアルを参照してください。
・DocuWorks のインストール手順については、DocuWorks のマニュアルを参照してください。

2.5.10 コンポーネントサーバーでサービスを起動する

コンポーネントサーバーのサービスを起動します。

参照 サービスを起動する方法は、[\[第 3 部 リストア - 既存のサーバーの場合\]](#)の「[2.4.3 サービスを起動する](#)」([P.68](#))を参照してください。

2.5.11 ライセンス認証をする

旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除して、そのライセンスを新規サーバーで利用できるようにします。

ハードウェアの故障などの理由で、旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除できない状態の場合は、『ライセンス認証ガイド』を参照してライセンス認証を解除してください。そのあと、新規サーバーでライセンス認証を実行してください。

2.6 外部連携サーバーでの操作

外部連携サーバーでは、次の操作をします。

- ・ [バックアップデータをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックス情報を削除する](#)
- ・ [ArcSuite をインストールする](#)
- ・ [\[mime.type\] ファイルをリストアする](#)
- ・ [アップデーター、ホットフィックスを適用する](#)
- ・ [外部連携サーバーでサービスを起動する](#)
- ・ [ライセンス認証をする](#)

補足 アップデーター、ホットフィックス情報の削除と適用、および「mime.type」ファイルのリストアは、必要に応じて実行します。

2.6.1 リストア対象となるデータ

外部連携サーバーには、次のバックアップデータをリストアします。

◆ レジストリーのデータ

- ・ ArcSuite のレジストリーキー

◆ ArcSuite の設定データ

- ・ キャプチャリングサービスの「mime.type」ファイル
- ・ 統合検索サービスの「mime.type」ファイル

◆ ユーザーホームのデータ

- ・ [DocumentGatheringAgent] フォルダー
- ・ [Capture] フォルダー

補足

- ・ [DocumentGatheringAgent] フォルダーは、統合検索サービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{統合検索サービスのユーザーホーム} ¥Client」フォルダーにあります。
- ・ [Capture] フォルダーは、キャプチャリングサービスのデータフォルダーです。デフォルトでは、「{キャプチャリングサービスのユーザーホーム} ¥Client」フォルダーにあります。
- ・ {統合検索サービスのユーザーホーム}、および {キャプチャリングサービスのユーザーホーム} のデフォルトは、「C:¥ArcSuite」です。

◆ キャプチャリングサービスのデータ

- ・ キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー

2.6.2 バックアップデータをリストアする

外部連携サーバーに、バックアップデータをリストアします。

参照 リストアに使用するバックアップデータの種類、格納場所については、[\[第 2 部 オフラインバックアップ\]](#) の [「1.6 バックアップするデータの確認」\(P.33\)](#) を参照してください。

1. ArcSuite がインストールされている外部連携サーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。

2. バックアップデータをリストアします。

◆ レジストリーのデータをリストアする

(1) [\[付録 B.2 レジストリーをリストアする\] \(P.121\)](#) を参照して、レジストリーをリストアします。

補足 統合検索サービスがインストールされている場合は、このあと、手順 [2](#) に進みます。

(2) 「ArcSuite 4.0 インストール」インストールメディアを、ドライブに挿入します。

(3) 次のファイルをコピーします。

{インストールメディア} %Client%Tools%Backup%reset_vdr.zip

(4) コピーした zip ファイルを、サーバーに展開します。

(5) 次のファイルがあることを確認します。

「reset_vdr.reg」ファイル

(6) 「reset_vdr.reg」ファイルを選択して、ダブルクリックします。

◆ キャプチャリングサービスのデータをリストアする

(1) 監視キューのフォルダーがすでに存在する場合は、削除します。

補足 監視キューのフォルダーが存在しない場合は、手順 [2](#) に進みます。

(2) キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

(3) Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。

[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

(4) 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d {キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー}
```

(5) 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
caccls " {キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー} " /T /C /P
Administrators:F {サービス起動ユーザー} :F
{監視キューに指定したフォルダーのアクセスユーザー} :C
```

- 補足**
- ・ {サービス起動ユーザー} は、通常は「ARCUSRSVC」です。
 - ・ 「{サービス起動ユーザー} : F」 は必ず指定します。
 - ・ 「{監視キューに指定したフォルダーのアクセスユーザー} : C」 は、ArcSuite 以外のアプリケーションで、「キャプチャリングサービスの監視キューに指定した監視フォルダー」にキューイングの処理をするときに指定します。{監視キューに指定したフォルダーのアクセスユーザー} は、アプリケーションの実行ユーザーを指定します。

(6) 「Capture」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

◆ 統合検索サービスのデータをリストアする

(1) 「DocumentGatheringAgent」フォルダーのバックアップデータを、決められた格納場所にリストア（コピー）します。

2.6.3 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、キャプチャリングサービス、統合検索サービスのアップデーター、ホットフィックスが含まれていた場合には、その情報を削除する必要があります。

補足 バックアップデータを作成した環境に、アップデーター、ホットフィックスを適用していない場合は、この操作は不要です。

参照 操作方法は、[\[第4部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の「[1.19.3 アップデーター、ホットフィックス情報を削除する](#)」(P.97) を参照してください。

2.6.4 ArcSuite をインストールする

ArcSuiteキャプチャリングサービス、統合検索サービスをインストールします。

参照 設置の詳細な手順は、『セットアップガイド』を参照してください。

2.6.5 「mime.type」 ファイルをリストアする

バックアップしたデータに、ArcSuiteの設定データの「mime.type」ファイルが含まれている場合は、そのファイルをリストアします。

参照 操作方法は、[\[第4部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の「[1.19.5 「mime.types」 ファイルをリストアする](#)」(P.97) を参照してください。

2.6.6 アップデーター、ホットフィックスを適用する

バックアップデータを作成したArcSuiteサーバーに、キャプチャリングサービス、統合検索サービスのアップデーターまたはホットフィックスを適用していた場合には、同じバージョンのアップデーターまたはホットフィックスを適用します。

参照 操作方法は、[\[第4部 リストア - 新規のサーバーの場合\]](#)の「[1.13 アップデーター、ホットフィックスの適用](#)」(P.89) を参照してください。

2.6.7 外部連携サーバーでサービスを起動する

外部連携サーバーのサービスを起動します。

参 照 サービスを起動する方法は、[「第 4 部 リストア - 新規のサーバーの場合」の「1.19.7 外部連携サーバーでサービスを起動する」\(P.98\)](#)を参照してください。

2.6.8 ライセンス認証をする

旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除して、そのライセンスを新規サーバーで利用できるようにします。

ハードウェアの故障などの理由で、旧サーバーで使用していたライセンス認証を解除できない状態の場合は、『ライセンス認証ガイド』を参照してライセンス認証を解除してください。そのあと、新規サーバーでライセンス認証を実行してください。



付録

付録 A システムを停止する期間の短縮

オフラインバックアップでは、バックアップ、リストアするとき、システムを停止する必要があります。システムを停止する期間をできるだけ短縮して、バックアップ、リストアする方法を紹介します。

付録 A.1 バックアップ時間の短縮

バックアップのためにシステムを停止する時間を短縮するには、次のような形態でバックアップを実行します。

◆ 「スナップショット」を利用する

スナップショットは、特定の時点のデータを抜き出して保存する方法です。スナップショットを利用するには、スナップショット機能を持つファイルシステムを使用します。ArcSuiteのサービスを停止したあと、スナップショットイメージを作成し、ArcSuiteのサービスを起動します。ArcSuiteの運用と並行してスナップショットイメージから、バックアップデータを作成します。

◆ 「ミラーリング」を利用する

ミラーリングは、ディスクドライブの複製データを別の場所に保存する方法です。ArcSuiteがインストールされているディスクドライブをミラーリングすることで、常に最新のデータを保存することができます。バックアップを実行するときは、ArcSuiteのサービスを停止したあと、いったんミラーリングを解除して、バックアップデータを作成します。そのあと、ArcSuiteを再起動して、ミラーリングを再開します。

◆ 「ディスクバックアップ」(D2D バックアップ) を利用する

「ディスクバックアップ」(D2Dバックアップ) とは、バックアップ先に別のハードディスクを使用する方法です。バックアップデータを、直接テープに書きこむよりも高速にバックアップできます。

注記 ディスクは、一時的な保存先として利用します。長期にデータを保存する場合は、バックアップ専用のメディアにデータをコピーしてください。

付録 A.2 リストア時間の短縮

ArcSuiteをインストールしたあとで、OSをイメージごとバックアップできるツールを使ってサーバーをバックアップしておくと、そのサーバーのリストアに必要な時間を短縮できます。

注記 バックアップしたデータを異なるサーバーにリストアする場合は、バックアップデータをそのまま利用できない場合があります。ツールの仕様を確認してから利用してください。

付録 B レジストリーのバックアップとリストア

レジストリーのバックアップとリストアには、Windowsに標準で用意されている「reg.exe」コマンドを使用します。

付録 B.1 レジストリーをバックアップする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

3. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

```
REG EXPORT "HKLM\SOFTWARE\Wow6432Node\FUJIFILM\ArcSuite" {ファイルの出力先パス} /y
```

{ファイルの出力先パス} に指定したファイルに、レジストリーがバックアップされます。
{ファイルの出力先パス} は、たとえば「D:\Temp\ArcSuite32.reg」と指定します。

4. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

```
REG EXPORT "HKLM\SOFTWARE\FUJIFILM\ArcSuite" {ファイルの出力先パス} /y
```

{ファイルの出力先パス} に指定したファイルに、レジストリーがバックアップされます。
{ファイルの出力先パス} は、たとえば「D:\Temp\ArcSuite64.reg」と指定します。

付録 B.2 レジストリーをリストアする

1. ArcSuite がインストールされているサーバーに、Administrator 権限を持つユーザーでサインインします。
2. Windows の [スタート] メニューから、[Windows システムツール] > [コマンドプロンプト] を右クリックし、[その他] > [管理者として実行] を選択します。
[管理者：コマンド プロンプト] 画面が表示されます。

3. 次のコマンドを入力し、<Enter> キーを押します。

{ファイルの格納先パス} には、[\[付録 B.1 レジストリーをバックアップする\] \(P.121\)](#) でバックアップしたレジストリーのファイルのパスを指定します。

ここでは、バックアップしたレジストリーのファイルをそれぞれ指定してコマンドを実行します。

例：REG IMPORT D:\Temp\ArcSuite32.reg

REG IMPORT D:\Temp\ArcSuite64.reg

```
REG IMPORT {ファイルの格納先パス}
```

レジストリーがリストアされます。

付録 C 「dbfiles.txt」 ファイルの出力例

「dbfiles.txt」には、次のようなデータベースのファイル情報が記述されます。

```
# 表領域のデータファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥SYSTEM01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥SYSAUX01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥UNDOTBS01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥USERS01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥EXAMPLE01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥RMS.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥RMS_NIM.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥PORTAL_TBS.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥DREPSYS.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥CMESSEGE.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥CMESSEGE_CAB1.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥EAPPLI.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥PUB_CAB_01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥PUB_CAB_02.DBF

# 一時表領域のデータファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥TEMP01.DBF
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥DREPTEMP.DBF

# REDO ファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥REDO03.LOG
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥REDO02.LOG
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥REDO01.LOG

# 制御ファイル
D:¥DATABASE¥DATAFILES¥ASEMHOST¥CONTROL01.CTL
D:¥DATABASE¥FAST_RECOVERY_AREA¥ASEMHOST¥CONTROL02.CTL

# サーバーパラメータファイル
D:¥DATABASE¥DBHOME_1¥DATABASE¥SPFILEASEMHOST.ORA
```

付録 D バックアップのためのチェックリスト

項目	内容	レ	備考
保存先	バックアップデータを保存するディスクまたはサーバー		用意されていること。
作成ツール	バックアップソフトウェア		用意されていること。
システム構成	オールインワン構成		
	2台構成		コンポーネントサーバー 1台 + リポジトリ 1台の構成であること。
			データベースがリポジトリサーバーにインストールされていること。
バージョン	アップデーターのバージョン ()		
	ホットフィックスのバージョン ()		
関連するサービス	ArcSuite Basic Service		インストールされているかどうか。
	ArcSuite Repository Service		
	ArcSuite Repository Master Admin Service		
	ArcSuite Web Application Service		
	ArcSuite Full Text Search Service		
	ArcSuite kSearchDuo Service		
	Fx Doc Cnv Helper		
	DocuWorks Print Service		
	ArcSuite Collabo Service		
	ArcSuite Monitoring Service		
	OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService		
	OracleVssWriter {SID}		
	OracleOraDB19Home1MTSRecoveryService		
	OracleRemExecServiceV2		
	OracleJobScheduler {SID}		
	OracleService {SID}		
	ArcSuite Capturing Service		
	ArcSuite Capturing Service Admin		
	ArcSuite DocumentGatheringAgent Register		
	ArcSuite DocumentGatheringAgent WebAdmin		
	ArcSuite DocumentGatheringAgent StorageProxy		

項目	内容	レ	備考
サービス起動 ユーザー、グループ	インストールしたときに設定したサービス起動ユーザー ()		
	インストールしたときに設定したグループ ()		
インストール 時、設定変更 時にバック アップする データの格納 場所	ArcSuiteにあるレジストリーキー		レジストリーの設定データ
	PWD {SID} .ora		データベースの設定データ
	listener.ora		
	tnsmanes.ora		
	sqlnet.ora		
	{ArcSuiteのプログラムホーム} %Service% Java%jre%lib%mime.types		・ ArcSuite の設定データ ・ ファイルがあるとき。
	{ArcSuiteのプログラムホーム} %Client% DocumentGatheringAgent%Java%jre%lib%mime.types		・ 統合検索サービスがインストールされているとき。 ・ ファイルがあるとき。
	{ArcSuiteのプログラムホーム} %Client% Capture%Java%jre%lib%mime.types		・ キャプチャリングサービスがインストールされているとき。 ・ ファイルがあるとき。

項目	内容	レ	備考
定期的にバックアップするデータの格納場所	表領域のデータファイル		データベースの運用データ 補 足 「{ホスト名_SID}」フォルダーは、存在しない場合があります。
	一時表領域のデータファイル		
	制御ファイル		
	REDOファイル		
	サーバーパラメーターファイル		
	「diag」 フォルダー		
	「{ホスト名_SID}」 フォルダー		
	「sysman」 フォルダー		
	{ArcSuiteのユーザーホーム} ¥Service		ユーザーホームのデータ
	ドロワーのストレージパスに指定したフォルダー		ドキュメント管理サービスのデータ
	ごみ箱のストレージパスに指定したフォルダー		
	アーカイブ保存データの出力先フォルダー		
	{統合検索サービスのユーザーホーム} ¥Client¥DocumentGatheringAgent		統合検索サービスがインストールされているとき。
	{キャプチャリングサービスのユーザーホーム} ¥Client¥Capture		キャプチャリングサービスがインストールされているとき。
	キャプチャリングの監視キューに指定した監視フォルダー		
	コラボスペースのインポートフォルダー		コラボスペースがインストールされているとき。
	コラボスペースのタスクのアーカイブデータを出力するフォルダー		
	ワークフローの外部コマンドの配置フォルダー		ワークフローがインストールされているとき。